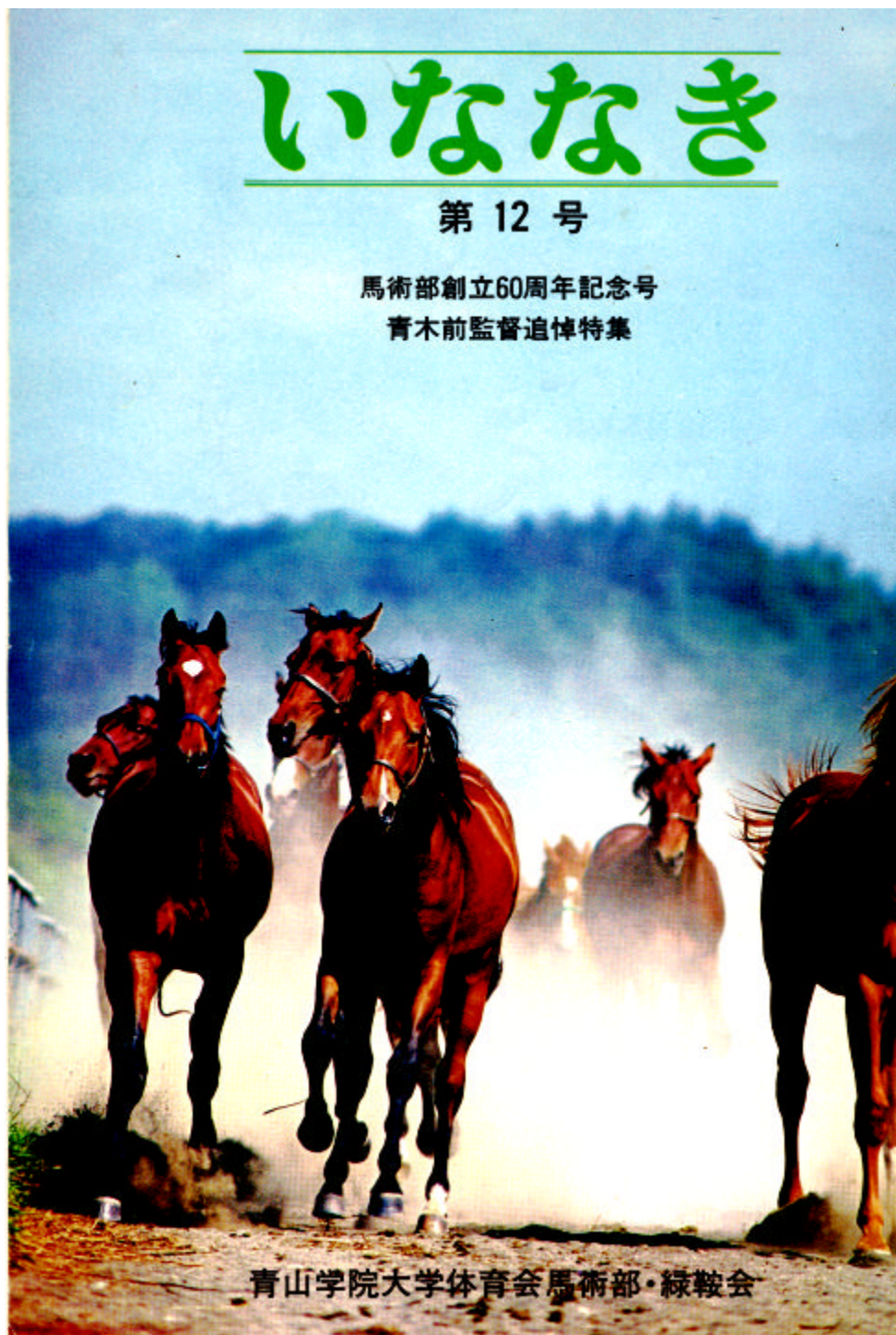


いななき

第 12 号

馬術部創立60周年記念号
青木前監督追悼特集



青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会

「脱骨試」への声！！

即座以上の歴史を語る高田氏のFUCHS氏の経歴
と日本の技術が関係した経緯の

★脱骨試！！

★脱骨試！！

「脱骨試」は、日本の技術が関係した経緯の
「脱骨試」は、日本の技術が関係した経緯の

S 三共商事株式会社

東京都港区新橋四丁目三番五号
電話 03-437-0721
FACHS 03-437-0721
TEL 03-437-0721
FACHS 03-437-0721

建築のことならなんでもご相談ください //

(株)コム設計

代表取締役社長 神 藤 重 光 (昭37年卒)

東京都港区新橋 4-31-5

信光ビル

☎ 03-437-0721

いななき

馬術部創立60周年記念号 青木前監督追悼特集

緑鞍会会長 井上恒春

青山学院大学馬術部が大正12年に創設されて、今年でちょうど60周年を迎えることとなりました。この間、多くの先輩諸氏や馬術界の方々のご指導、ご鞭撻を受けて、今日のような伝統ある馬術部を築くことができましたことを、心より感謝申し上げます。

なかでも故青木真次前監督のご功績は大きく、彼なしには現在の馬術部は語れません。突然のご逝去は誠に遺憾であります。

「いななき」第12号は、60周年を記念するとともに、青木前監督のご功績をしのぶよすがにしたいと思います。

なお、今後も現役、OB一同、より大きな発展に向けて、努力いたしますので、みなさまがたの一層のご協力をお願い申し上げます。

主将 高久秀康

馬術部創立60周年を迎えたこの時期に、主将の任を受けたことを光栄に思います。それとともに輝やかしい青山学院馬術部の歴史を汚さないよう、頑張らなければならないと、衿を正す気持でいます。みなさまのご援助のおかげで、今年は全日本学生馬術大会において、種目総合で5位になることができました。馬も13頭にふえまして、さらに上位をねらって努力を続けたいと思います。

渋谷、厚木、綱島と、3カ所に分かれていますし、飼料代稼ぎのアルバイトなどに追われ、十分な馬匹管理や練習もできない状態ですが、精いっぱいやります。「いななき」発刊を期して、部員一同を代表し、ご報告申し上げます。

巻頭の挨拶

青山学院大学院長

大木金次郎

青山学院大学体育会・馬術部と、OB会・緑鞍会とが、機関誌「いななき」を再度発行されますこと、お喜び申し上げます。

本学の馬術部が創設されたのは大正12年、今年でちょうど60年になります。私自身が馬術部について記憶することのひとつに、綱島グランドの馬術部室と厩舎の新築に関することがあります。昭和35年、本学の総合運動

場として建設中であつた綱島グランドを見て回つたとき、私は馬術部室と厩舎の必要性を痛感しました。そして、それらを建築するよう、私の独断で学校当局に要求したのです。その際、当時青学構内にあつた馬術部室と厩舎を見て、その荒れ果てた様子に驚いたわけです。

馬術部が今日の隆盛に至つた長い歴史のなかには、多くの部員やOBの尽力がありましたが、ことに忘れてならないのは、故内藤長一氏と、故青木真次氏のことです。青木氏については追悼特集に書きましたのでここでは

ふれませんが、内藤氏について一言、書き添えたいと思います。

内藤氏は大正12年実業科卒で、おそらく彼あたりが馬術部の創設者であつたかも知れません。彼は、敗戦直後から、自費を支出して馬糧の買入れ、馬具の購入など、各種の世話をしてくれました。

そのほかにも多くのよい先輩、協力者に恵まれ、馬術部は本当に幸福な運動部であります。現役部員のより一層の健闘を祈ります。

第一部

目次

思い出がいっぱい

青木真次前監督をしのんで	4	卒業後の馬とのつきあい(長野 明)	39
大木 金次郎(青山学院大学院長)	4	馬と私(福島 保男)	39
印南 清(馬術家)	5	馬に憧れて(阿部 雄三)	41
青木 昇(昭16卒)	6	青木先生と遠野(長岡由美子)	42
張間 陸途(昭35卒・現監督)	7	愛しき馬よ!(大塚まり子)	43
伊藤 政夫(昭4卒)	7	昭和四十九年騎乗日誌より(大山 祥子)	43

第二部

新城直樹（昭28卒）	8
市原昭十郎（昭32卒）	8
植松英二（昭28卒）	9
赤鳴たみ子（昭33短卒）	10
馬と部員とOBと	15
馬匹紹介	17
部員紹介	24
部室の落書き帳より	27
遠野合宿日記	29
馬術部とアルバイト	32
戦績	35

第三部

あんでぱんだん	45
幹事長挨拶 （幹事長・遠藤恭輝）	47
馬術部に思うこと・望むこと （監督・張間陸協）	47
現場から （馬術家・松本昭四郎）	48
追憶―徒然なるままに（前主将・川野孝徳）	49
思うままに筆まかせ （新主将高久秀康）	49
馬術部の還暦を迎えて （羽板勇司）	50
'83初乗り会報告 （石田謙三）	50



OCEAN
CHARTERING, LTD.

TOKYU GINZA BLDG. 3RD FL.
2-15-2, GINZA, CHUO-KU, TOKYO 104
PHONE : (03) 542-8561/6
CABLE : "CHARTOCEAN" TOKYO
TELEX : J24691 J26954 252-3513

SPECIALIZED SIP BROKERS

- * Oil Tankers
- * Gas Carriers
- * Chemical Tankers

青木真次前監督をしのんで



青木前監督の葬儀は、昭和56年11月21日午後2時より、青山学院大学礼拝堂において、大学当局、大学体育会、馬術界、ほか関係者多数の参列のうちに、しめやかに行われました。祭壇には、白と黄の菊の花で氏の愛した馬が形作られ、中央に飾られたにこやかな遺影とともに、参列者のあらたな涙をそそりました。

馬の話になると
笑顔がこぼれる。



遠野にて、愛馬と青木さん。



柩を乗せた馬車は、部員に引かれて・・・

馬を愛し

馬に集う友を愛し

遠野の人と自然を愛し…

命つきるまで

青山学院馬術部のために

心血をそそいだ人

祈りもむなしく

召されてみ国へ旅立った

しかし、あなたが

網島の土に遺した種は

守り育てられ

いま

花ひらくべく

じつと春を待つ…

青木真次氏 略歴

明治40年兵庫県に生まれる。昭和4年、青山学院旧制高等学部商科卒。同年、日本石油(株)入社。戦時中の8年間の兵役を以て35年間、同社に勤務。外事室長、仕入部長、米国日本石油(ニッポン・オイルカンパニー・デラウェア)取締役副社長を歴任。39年より船舶チャーターの新事業に従事、オール商会専務取締役を経て、46年、(株)オーシャン・チャーターソング創立、代表取締役に就任。56年11月11日、虎の門病院にて永眠。享年73歳。

母校、馬、そして後輩を愛し、昭和26年の馬術部再建以来、OBとして物心両面の援助を続ける。55年1月、緑鞍会より請われて監督に就任。以来、学生と寝食をともにして、馬術部の強化に貢献。全日本学生馬術連盟理事としてよも活躍した。

青木真次監督を憶んで

青木君が召天されて、2年余りが過ぎました。青山学院大学チャペルでの彼の葬儀が、ついこの間のように思い出されます。

彼は昭和4年3月、青山学院商科を私たちとともに卒業しましたが、それから54年余を経過しているのですから、光陰矢の如し、という実感を伴います。

学生時代の青木君は、主として馬術部に属していましたが、ラグビー部などにも関係していたと記憶しています。当時は学生数が少なかったため、クラスメートはお互によく知り合っていました。私は2年から4年までクラス委員長に選ばれていたため、同学年の級友たちとは誰かれとなく親しく話し合っていました。青木君も、友人との交際が多かったようでした。

未亡人の青木春江さんは、われわれの一年下のクラスの故妹尾君の妹さんで、当時、おふたりのことについては、キャンパス内のみならず、おふたりは恋愛結婚をされたと思います。

青木君は、同じクラスの中では、緒方、中野、伊藤政夫、故人となられた西村君たちと親しくしていました。彼らは中学部（旧制）の同級生であつたから、特別に親しかつたのでしょう。

青木君はわれわれのクラスの中で、英会話をもっとも秀れていました。ミス・ムーンという米人教師は、英会話の時間には、特に青木君に名指しで話しかけていました。

彼はまた、スポーツ万能選手らしく、どの種類のスポーツでもひと通り上手にこなしていたようでした。生来、才気煥発という風格があり、学内での各種の活動に常に積極的にとり組んでいました。キリスト教信者の家庭に成育したので、彼の人柄のなかには、周囲の人々に精神的な雰囲気をもし出すなにかがあつて、そのために多くの級友たちから特に親しまれていました。

彼は卒業後、日本石油（株）に入社し、仕入部長を最後に定年退職したようですが、独力でオーシャン・チャーターリング（株）を創立して、

短時日の間に会社の基礎を築きあげました。不況のときにも、世界の4つの海を股にかけて巡り、堂々たる活躍をみずから実行しながら、会社の陣頭指揮をしていたようです。それが、生来頑健であつたからですが、それを考えると、あのように早く召天されるとは夢にも思つていませんでした。

彼は、自分には子どもが恵まれないから、若い青年たちのために努力してやりたい、と常に言っていました。私の長男が慶大を卒業したとき、日石と三井物産とを受験して、同じ日に双方から採用決定の通知が来ました。慶大の就職部長にたずねましたところ、本人の選択によつていずれの会社に決定してもよいと申されまして、本人の意向で三井物産にお世話になっていますが、そのとき青木君は、「僕に子どもがないから、日石に入社させて僕に世話をさせてくれればよかったのに」と、心から言ってくれました。いまでもそのときの彼の友情を感謝しています。

彼は、母校の馬術部の全部員を愛し、世話

をしてくれました。馬術部のために、相当額の支出をしていました。現在でも存在する東北地区の遠野市にある彼の家は、馬術部員の夏季休暇中の合宿所として建設したものです。いかに、馬術部と部員たちを愛していたか、を思い出しています。

彼は拙宅に何回か訪ねてくれましたが、虎の門病院に入院中も時間を作って、来てくれました。私は何回、病院に彼をお見舞いしました。彼は私たち夫婦に、欧米に観光旅行をするようにと熱心に勧誘してくれまして、「旅費や宿泊費はすべて僕が賄う。母校のために奉仕している君を、慰勞したいのだ」と、言ってくれました。

彼は退院後も、何回か入院を繰り返してました。病院から直接、拙宅に訪ねてくれとがあります。そのとき、私は透析という病気の治療法があることを、初めて教えて貰いました。思えば、あのときの彼の顔色のなかに、いま迄の彼とは異なるものを私は感じていたのです。愚妻もそのように言っていました。

それから間もなく、彼とは永遠の訣別となつてしまいました。深い哀悼の念に耐えがたい思いであります。在天の青木真次君の霊の安らかな眠りと、青木春江未亡人の上に天の特別なご恩寵の豊かならんとすることを切に祈りあげつつ、ペンを置きます。

大木 金次郎 「青山学院大学院長」



心の許せる良い友を失うことは、近親を失うよりもさびしいものである。

青木さんは、そういう友のひとりであった。青木さんは実業家としても立派な業績を残されたのであるが、門外漢の私にはその多くを知る由もない。が、こと馬に関しては、青木さんこそ本當の意味での愛馬家であり、まれにみる馬術の先覚者であり、功労者であつたと私は信ずる。

青木さんは古いパレスの会員であり、また振興会の中堅的会員でもあつた。

私はかなり永い間、青木さんの馬術を見てあげたが、青木さんの馬の乗り方は、とうてい70歳近い老人のそれとは思えぬ強引で熱のこもつたもので、また、青年の如き向上心と気塊に富んだものであつた。

いまその1、2の例をあげれば、あのご老体でしばしば鎧を上げて長時間、速歩、駆歩の運動を続けたり、ご自分の乗り方の批判矯正を積極的に私に求めたり、またある馬にロングレインをもつてする調教を試みたり、あるいは自分の愛情によつて馬をしつけると称して、馬とともに遊んでみたり、といった具合で、その企画心と愛馬心の旺盛なのに驚きいつたものである。

青木さんは、お仕事の関係でしばしば外国に出張される機会があつたが、特にロンドンには親しい外人の馬友がいて、かの地でよくその馬友と乗馬を楽しんだという話を聞かされたものである。

ロンドンのハイドパークを訪ねた方はご存知のように、あの公園では華麗な軽馬車を駆る上品な外人をよく見かけるが、青木さんはあの軽馬車に憑かれていた。そしてついに、遠野市で尾花栗毛の愛らしい小型の馬を買い、ロンドンから軽馬車を取り寄せて、それに乗ることを楽しみにしていた。しかし、病魔のため、その望みを一度も果たすことができなかったことは、どんなにか心残りであつたろうと、悔まれてならない。

ここに私が特筆したいのは、青木さんの、母校青山学院大学馬術部に傾けられた情熱と努力についてである。監督になられる前からもそうであつたが、監督になられてからは、私の顔を見ると、いつでもまず青学馬術部発展策の構想を述べて、私の意見を聞くという具合であつた。青木さんの胸中、相当の部分はこの構想で占められていた、といつても過言ではないと思われる。

青木さんは、かねがねご自分の学生時代に習志野原を馬で駆け回つたときのことを回想し、なんとかしていまの学生にも、あの雄壮活発な野外騎乗を体験させ、その氣宇を壮大にしたいと話しておられた。そしてある夏、岩手県遠野市を訪れ、そこに広大な野外騎乗

の適地を発見した。市首脳部の了解を取りつけ、ただちに一軒の曲り家を手に入れ、これに巨費を投じて改修を加え、学生の夏季合宿所としたのである。

これをみただけでも青木さんがいかに青学馬術部を愛し、その発展を念願しておられたかを知るが、彼の施策は決してこの一事にはとまらない。

水野先生を動かして校馬の再調教と学生の技術向上をはかり、張間氏を振興会に入れて後任監督の強化を願い、そのほか、真に涙ぐましい努力を傾けられたのである。

以上は私の見聞きした範囲での馬事に関するご業績であるが、このほかにも幾多のご業績を残されたことは想像に余りある。

人間としての青木さんのすばらしさについては、いくら賛辞を捧げても限らないが、ほかに顕彰する人があると思うので、ここでは割愛することにする。

最後に、ご生前にいただいた数々のご芳情に対し、本誌上を借りて深厚の謝意を表するとともに、心からご冥福をお祈りして筆を置くこととする。合掌。

印南 清（馬術家）



歲月、人を待たず、とか。昨日のように思われた青木先輩のことが、はや幽冥境を異にされてより一年余を経過した。

馬術部にとつて、また線鞍会にとつて、かけがえない大切な人材であり、私にとつては50年も前の幼ない日から、折にふれお世話になりご指導を受けた恩人であり、その折々のことが哀しく思い起されるのである。

青木先輩は、昭和4年に青山学院を卒業され、私の父が日本石油大阪支店長のとき、新進気鋭の青年社員として大阪へ赴任してこられた。

昭和8年、父は東京店長に転任になった。大阪府立住吉中学1年生であった私と4年生の次兄とは、東京に転校する学校がなく、とりあえず親戚に預けられて、大阪の中学校に通っていた。当時、中学1年生は、どの学校でも若干の移動を予定して多目に入学させていたので、転校は非常に困難であった。父は慶応義塾出身だったので、私たちを慶応普通部へ転校させたかったのだが、普通部は3年生に若干の転校生を受け入れられるだけであつた。父の心痛を見かねた青木先輩が、「私の母校の青山学院に、事情を話して相談してみましようか」と、ご提案くださった。「あなたのように優秀な社員の母校である青山学院なら、ぜひ転校をお願いしていただき

たい」ということになり、昭和9年1月より、青山学院に転校することができた。

中学部のころはラグビー部に属していたが、高等部に進み、とても私の体格では不向きと自覚して、羽坂、篠原両君とともに馬術部に籍を置いた。部屋に入ると、壁に先輩の名札がずつと下つていて、その前の方に「青木真次」氏の名前をみつけ、偶然に驚いた。

ただ、私の馬術部生活中、青木先輩は応召されて外地に行つておられ、卒業までついにお目にかかる機会に恵まれなかつた。私も、昭和16年12月、第2次世界大戦勃発の年に、第1回繰り上げ卒業生としてあわただしく緑ヶ岡をあとにした。そして、青木先輩は20年に復員され、私は22年暮れにソビエトから復員したのである。

昭和26、7年ごろから、ぼつぼつB会が集まりが開かれるようになり、馬術部の再建について青木先輩のご意見を拝聴する機会が度重なつた。特に監督ご就任後の馬術部に対する情熱は、私たちはもちろん、どんな若い人たちも及ばない一途な執念に燃えておられたのであろうか。

70余歳の年齢をもつて、寒風吹きすさぶ厳冬の早朝、馬場に立たれ、また夜中まで「青木馬術教室」でコーチ陣の教育に当たられるなど、このような熱情を馬術に傾けることができるということは、なんとすばらしいことであらうか。

氏の人生の半面は、馬に始まり馬に終られたといつても過言ではないと思う。ご冥福を祈ること、切なるものがある。

青木 昇（昭16卒）



光陰、矢の如し……私の年齢になりますとまさに実感で、青木前監督からお誘いをうけ、馬術部のお手伝いをするようになって、もう3年が過ぎました。この周、青木さんのあまりに強烈なご教示にたじたとになり、安うけあいしたことを悔やんだことも多々ありましたが、あの馬術部に心血を注がれる情熱と人間的魅力にとりつかれて、今日に至った次第です。

それだけに、青木さんの死に直面したときのショックは、筆舌に表わしがたいものでした。いま、静かに青木さんの思い出をたどり、現在の馬術部を考えると、その残された業績の大きさに思い至ります。

昨年の馬術部は、近來まれにみる好成績をあげることができました。これも線鞍会の強力なバックアップがあったからこそです。また、城戸先生、印南先生からは、騎士道精神のなんたるかをご指導いただいていますし、水野先生からは、馬匹の向上についてのご指導と、水野馬匹センター合宿による人馬の訓練、さらに松本先生には、毎朝の網島でのト

レーニングなど、諸先生のお力をどれだけ受けたかしれません。このはかにも、陰に陽にご援助をいただいている方は枚挙にいとまがありませんが、これすべて、青木さんの人脈なのです。

遠く歴史をさかのぼっても、青木さんの影響は大きく、馬を愛し、部活動を通じて人間形成を行なうという伝統を作り上げられました。これを後輩に引き継ぐことがいかに大切であるか、その責任の重さを痛感しております。

夏のハイライトであった遠野の合宿も、青木さんのおかげで5年間続けることができました。馬は秋の競技会に備えて休養し、学生たちは楽しい思い出を作りました。また、放牧されている馬の親子とたわむれ、馬の原点を肌で知ることの喜びは、青木さんが男の口マンとして追い続けた夢を、私たちにも与えてくださったものでした。

最後になりましたが、青木さん亡きあとでも春江夫人が、馬術部に大変なご好意を寄せてくださり、たくさんのご寄附を続けていただいていますこと、感謝にたえません。青木前監督のご冥福をお祈りしつつ、筆を置きます。

張間陸途（昭35卒）

（現監督）



このたび、青木真次君の追悼文寄稿の依頼を受け、文才なき小生不適任と思うが、馬気違いの一員として、彼を偲ぶこと人事に劣る者でないので、あえて捧げることにした。

彼が晩年に入退院をくり返していたことを後日知り、一度の見舞いも致さぬうちにその卦報に接した。幽明境を異にした友を引き戻すすべもなく、驚きと悲しみのうちに諸行無常をひとしお感じさせられ、誠に残念至極、悔やむのみである。このような場合、縁鞍会にてなんらかの配慮がほしかった。

彼と親しく語り合った青学会館でのトンネル例会、昭和56年3月26日の夜が、永久の別れとなつてしまった。

彼と小生とは中学からの友で、馬術部に入部してから特に親交を結ぶようになった。彼は実に要領がよく、頭脳明晰で、乗馬のみならずラグビー部にも在籍し、よく学びよく遊んだ男である。彼は学生時代より将来を見透し計画を立てていたことが、いまにしてよくうなづけるのである。それは、授業をサボるかたわら外人教師の家庭を訪ね、海外での活躍を夢見ながら、英会話の修得に努めていたことである。このときすでに、将来に対する基盤が培かわれていたのだ。

当時、健康上の理由で、彼の母上から乗馬をやめるよう説得方の懇請を受けたことがあ

るが、小生にはとうてい彼を翻意させる力もなく、釈迦に説法であつた。彼は小生にとつて、学習においてもよき相談相手であり、乗馬においてはよき指導者であつたのである。母上には誠に申し訳なく思いつつ、ともに風雨の日にもめげず馬氣違いに明け暮れてしまつた。お互に家庭を訪ねあい、保革油、蹄油、ほこりの匂いの漂う部屋で、馬談議に花を咲かせたものだ。

社会人となつてからは会う機会も少なくなつたため、軍馬の利用が皆無となつた戦後、馬好きの彼が母校の馬術部の発展と育成を志して頑張つていたことを知らされ、いま改めて、同期の一員として感謝し、その熱意に対して敬意を表するとともに頭の下る思いである。彼の存在が、我々OBにとつていかに大きな心の支えとなつていたことか。

彼が多くの人から愛された所以は、天性とも思われる明かるい性格と、人を選び好みしなかつたためである。彼と握手を交すだけで、時の流れに関係なく心暖まるものがあつた。

我々はいかに頑張ろうとも、悠久に流れ去る「時」を追い求めることは不可能で、いつかは終焉のときを迎える宿命である。悲しくも別れはこの世の常であるが、いままじし、彼には長生きして欲しかつた。しかし、与えられた天命はいかんともなしがたい。彼は悔いなき充実した人生を歩み続けたことと思つてゐる。

今は亡き馬野郎、青木真次よ、天国で安ら

かに眠りについてくれ。私の脳裏から消えることのない君の傍を追いながら、永久の冥福を祈るのみ。

伊藤政夫（昭4卒）



青木さんと私とのつき合いは、かれこれ⁶⁰年以上に及ぶことになる。その当時の青木さんは、日本石油㈱の仕入部長という要職にあり、もつとも脂の乗り切つた現役のバリバリであつたから、私としては、恐い先輩というイメージが強かつた。

青木さんが会長、私が幹事長……という間柄にあつたせい、ちよつとでも気を抜こうものなら、「そんな^B会なら解散してしまえ」とか、「そんな^B会なら解散してしまえ」とか、「そんな^B会なら解散してしまえ」とか、ずいぶん叱られたものである。

なにしろ、青木さんの質問はひとつに留まらず、次から次へと発展するので、要件を言いつけられたらそれに関することをすべて調べておかねばならず、下準備が大変だつた。しかし、その教訓が、以後の私の仕事にどれだけ役に立つたことか。今日の私があるのもそのおかげだと、本当に感謝している。

その後青木さんが独立され、私がたまたま金融機関に勤めていたこともあつて、個人的な経済顧問になつてくれとおっしゃり、私なりにいろいろ調べアドバイスをするのがで

きた。が、万分之一のお礼もできないまま召天されてしまったことが、かえすがえすも残念でたまらない。

今日の馬術部の隆盛をみるにつけ、もう少し生きていて欲しかつた、せめてあと「1」年も「1」年でも、と思うひとりである。せつかく青木さんが一生懸命土台を作つてくださった青山学院馬術部を、線鞍会のみんで育てていかなければ申し訳ないと思つている。

どうか、先輩、ならびに線鞍会の諸君よ！青木さんの意志を尊重し、これからもできる限りの応援をしてくださるようお願いする次第です。

青木さんの霊よ安かれ、と心より祈りつつ。

新城直樹（昭28卒）



青木監督が亡くなられたという報に接したとき、突然のことに驚き、あわてて病院に向かいました。

前年5月頃より、微熱気味と心配されていましたが、それでも毎月土曜日を監督会の日として、直接現役の指導に當つてゐる助監督やコーチを集め、馬の状況、調教計画、試合スケジュールに対する練習計画などを、テキパキと打ち合わせていらつしやいました。一段落すると、持参された弁当などを配つて食事。職場から直接かけつける若手コーチに心

を配り、いつもお寿司やサンドウィッチを用意してくださったのでした。食事のあとは、青木馬術教室と称して、欧州へ出張なさったとき入手した馬術の本をもとに、馬学や調教の基本的な心得についての講義が続きました。馬に乗る者はまず馬のことを知る必要がある。そして、馬を調教するには、その心理を心得て順序を追った訓練をしなければならぬ……それが青木監督の信念で、若手コーチが陥りやすい即製の調教を、きつくいましめていらつしやいました。

私は当時、緑鞍会の幹事長として、OB会員との連絡の任にあつたので、幹事長は監督会の活動をよく知つておく必要がある、とのことで、時々、出席させられていました。

青木馬術教室に出席して感じていたことは監督は本当に馬を愛しておられるな、ということでした。たとえば、学生馬術の障害飛越競技を見られて、

「最近の学生は、馬をオートパイのような機械だと思つてゐるのではないかと、おつしやつたことがあります。」

競技に出場する前に、練習場で馬をいじめるすぎるといふことです。日ごろの練習の雰囲気のまま出場すれば、馬も落ち着いて飛んで来るだろうに、出場前に興奮させてしまつてゐるのです。青木監督の話の中には、馬の立場で考えて、馬と心をひとつにして競技をおこなう、いわゆる人馬一体の馬術の極致があ

るのでした。

そして、学生を初めすべての人々に馬を愛する心を持つて貰いたいという想いが、日本の馬のふる里である岩手県遠野市に、馬術部員の合宿所としての南部曲り家「いななき荘」となり、遠野の大自然の中に放牧されている馬とその生態を知ることでの、馬を理解した馬乗りの育成となつたのでした。

青木監督が、その夢の実現のひとつとして作りつつ、未完成のままに他界されたドキュメント映画「馬のふる里」は、その後、関係者の努力で完成しました。これは、美しい遠野の自然と人のなかで育つていく南部駒の姿を、躍動的に描いたものです。

昨年²⁰²²年、草月ホールで開催された追悼映画会には、多数のご遺族や関係者が出席、スクリーンのありし日の青木監督に、感激をあらたにしたのでした。

市原昭十郎（昭32卒）



1981年11月21日 午後2時、青山学院大学チャペルで、青木真次先輩の葬儀が執り行われた。司式牧師として、この私が葬儀に参列しようとは夢にも考えられないことであつた。

青木さんと最初におめにかかつたのは、33年程前のことであつた。日本石油本社にボロ

の学生服をまとつて訪問した。日本敗戦後の混乱が少しく落ちつきを取り戻し、青山学院大学の馬術部の再建がなり、部員が十数名になつた頃だと思ふ。「寄附を頂きにまいりました」と言つて参上した。案内されて事務室に入つたが、窓側の課長席にワイシャツ姿の、その白いシャツの色が何と新鮮だったことか、青木さんが坐つておられた。「浅く、引きしまった相貌「そうばう」というのがそのときの第一印象であつた。

気を付けの姿勢で、深々と最敬礼した私に「よく来たナ」とまるで長い間待つていたかのような声がかかつた。このときの様子を今でも明らかに記憶しているのは、どうしたわけだろうか。たぶん「追い帰されるのでは……」という杞憂が一べんに吹きとんで、嬉しさが猛然とこみ上げたといふかつての経験があつたからであろう。

私が青木さんのことを考えるとき、何よりもはじめに、あの『目のいろ』が脳裏に浮ぶのは、自分でもおかしいことだと思つてゐる。部のことで、しばしば相談に伺つたものだが、青木さんは、話を終りまで聞いたうえで、「それでは、君はどう考えるのか」といわれるのである。返事をそらすと、「ほかのことはどうでもよい、君自身は一体どうなのか」といつた途端に、あの濃厚そうな目玉に異様なひかりが出てきて、こつちに迫ってくるのである。言葉つきは丁寧だが、あの急変する

『目のいる』には不思議なこわさがあったな。だからといって、恐怖に圧倒されて声が出ないほど萎縮するということでもない。気が茶目落しに陥る瞬間に、あの目玉が“茶目気”ないろに忽然と変化する。ホットして気がゆるむんでしばらくすると、またたちまち異様な眼光でこちらが不自由にさせられるのであった。あの“茶目気”な目がキラキラと輝いたのを青木さんに見たのは、牧師でも、こういう所があるのを知っておけ、損はしないと云って連れていかれた赤坂の『花馬車?』の部屋の中であった。あれは、大変ケツコウな勉強になりました。

青木さんには、『父性的優しさ』がたっぷりあったと思うし、それが周囲の人を魅了した独特な人格ではなかったかと思われる。

青木さんは、かつて私の教会の礼拝の席に坐られて若輩の語る説教に耳を傾けておられた。ご両親は、プロテスタントの篤信な基督者であり、信仰的感化を受けて青木さんご自身も青年期に自分の意志で洗礼を受けられた。生前、そのことを口外することがなかったが、その人格にキリストの影をいろこく宿されていたのは確かであった。彼の人格的魅力は若き日の受洗とかかわりの無いことではなかった。そして、それは激しい企業競争の中にあっても『大切なもの』を売り渡して俗物に転落するのを免れせしめたと、私は信じている。

多数の人と触れ合ってきた私が、人々との

出合いによつて良い意味でも悪い意味でも人生が変えられたり、深められたりしたのだが、青木さんはその一人の人であつて、忘れ難く、またなつかしい先輩として私の胸にとどまつて

いる。終りに青木春江夫人は、現在、私の牧する教会の忠実なメソバードで、毎日曜日に晴々しいお姿を拝見することができるのを、感謝をもつて故人にお知らせしたいと思う。

植松英二（昭28卒）



青木さんと私との出合いを確かなものにしたのは、“遠野”でした。

「青木さんが岩手県の遠野に馬術部の合宿所を作りたいので貴女にも協力して欲しいそうだ」と、沈さんからお話があつて間もなく、直接青木さんにお目にかかりその夢や抱負を伺いました。伺っているうちに、私もすっかり楽しくなり、“事務局長”でいらした神藤さんの御指示に従つて協力させていただくことになりました。

次いで、“第二馬主会”へのお誘いがありました。すでに“第一馬主会”は、青木さんの提唱によつて、沈さん、福原さん、内藤さん、神藤さん、飯田さん達で結成されており、遠野の馬市で買入れた馬を育成、調教中で、仕上つたら学生に寄贈するボランティア

ア・グループだとのことでした。

“第二馬主会”のメンバーは、堀内さん、岩崎さん、堤さん、大塚さん、私が青木さんのもとに集いました。途中で、無事に調教を終えた御自分達の馬を学生に寄贈し、自然解散となつた“第一馬主会”のメンバーの中から、沈さんと福原さんが加わつて下さつて、“第二馬主会”は総勢8人となりました。ちなみに、その折寄贈された馬は、現在活躍中の“青遠”です。

私達が秋の遠野へ出かけてセリ市で買入れた仔馬「明け2歳」は、金色に光る栗毛の美しい馬でした。1年間育成料を払つてそのまま馬産農家に預け、やがて東京近郊の乗馬倶楽部に移して調教をはじめたのですが、残念ながら左八ミが固くて学生の乗馬には向かないと判定されて他の練習馬と交換され、手に渡ることになってしまいました。その間、何度も会合を持つて、色々話し合いましたが、そんな活動にも実に御熱心な青木さんでした。OB達が現役を支える活動の輪を広げようと、常にお心を砕いていらした御様子が伺えました。

実業家としての青木さんは、豊富な知識と、卓抜した手腕を高く評価されていらしたと伺っています。私が存じ上げている青木さんは、多感な、人間らしい、時には幼児の様にすらお見受け出来る、無邪気な方でした。

越路吹雪のリサイタルにお伴した時、“愛

の讃歌の絶唱に、頼を紅潮させて涙をぬぐわれるお姿を拝見して、まるで青春のさ中にある青年のようだ、目を見張る想いでした。

香港でお目にかかった時には、オンボロの汽車の、それでも特等席に陣取って、国境へ案内して下さいました。小さな河口の町の、小さな食堂で、水槽に泳いでいる魚を指さして、「どれを食べようか」と、目を輝かし、やがて運ばれてきたガルーバの料理に舌づつみを打つ青木さんは本当にお楽しそうでした。

やはり外国で、お得意の英語がタクシーの運転手に通じなくて悪戦苦闘の末、傍にいらした沈さんの一言の英語が通じてしまったという一幕があり、後々までその発音をくり返して首をかしげられ、私達の笑いを誘ったものでした。

しかし、その頃すでに、青木さんの癌との戦いは始まっていたのです。5年の春のことでした。そしてその時期はまた、御自分との戦いのさ中でもあったのです。「僕は癌なのだよ」とおっしゃり、「まさか」と否定する私に、「自分のことは自分が一番知っている」といら立たしげにおっしゃって、それでも御自身自身を納得させるかのように、「血液をすつかり取り換えてきれいにすれば全治するそうだ」と熱心に説明してくださるのです。そしてまた、次の瞬間には、「動ける間に遺言状をきちんと作って置かなくては…まず馬

術部の「青木基金」のことを書いて、次に施設への寄附だけ、世の中に何を遺そうかと色々考えるのも楽しいものだよ」と、晴ればれとしたお漢で話される青木さんでした。

張間さんを次期監督に推したいとお決めになつてからは、経済的バックアップの基盤のことを常に考えておいででした。私達馬術部関係者のみにでなく、親しい友人であると同時に、経済面での良き相談相手でもいらした、經理士の大磯さんにもそのことはしばしば話していられたと伺っています。

いつも病氣のことがお氣持の上に重くのかかっていた筈なのに、馬術部に対するお心は深く、考えを話されるときは驚く程明らか、ご計画も綿密でした。お元氣な時は勿論、ご氣分が悪くいらつしやる時も、私達に話されることのほとんどすべてが、馬術部の発展を熟慮なさつてのものでした。

「5分間だけ」とおっしゃるお電話が2時間にも及び、「ちよつとだけ」とおっしゃつてお目にかかる、半日は優に費やす、など、馬術部に対するご熱意のほどを知る人は多いことでしょう。

入、退院をくり返されるうちに5年の秋となり、3度目のご退院のあと、箱根で約1週間ご静養なさり、次いで以前からのご希望だった夢科でのご静養を、約10日間なさりました。近くの小淵沢乗馬倶楽部に預けていらした「リビッツア」を見に出かけられたり、ひ

とりで散歩をなさるなど、氣分の良いときはお楽しそうだったと伺っています。

帰京されるとすぐ、周囲の反対を押し切つて、遠野へお出かけになりました。一足先にクルマで現地に着き、花巻の飛行場迄青木さんを迎えに行った運転手の木下さんが、タクシーの下迄出迎えに行かなかつたことを、ひどく叱責されたそう、タクシーから改札口までの、わずかの道程が、よほどおつらかつたものと推察されます。

しかし、遠野に落ち着かれてからは、その夏学生達が合宿した後の始末のことなど、何くれとなくお心配りなさつたり、余生をその地で過そうと手配なさつていらした土地を見にいらつしやるなど、小康を保つていらしたそうです、やがて、つき添つていた木下さんから、「青木さんの容態が悪化したので帰京するが、青木さんのご命令で、クルマで途中休み休み帰る」と電話がありました。私は、「すぐに切符を手配しますから、飛行機でお帰り下さい」と青木さんに伝えてくれる様頼みました。青木さんは、ずつと横になつたまま帰れるクルマを主張なさつていたのでした。もう直接電話口に出ただけの状況ではなく、木下さんは、青木さんの病床と、電話口とを往つたり来たりして、私の説得を伝えてくれました。「2日かかって、3日かかって」とおっしゃる青木さんに、私はどうしても同意出来ませんでした。

永い押し問答の末、飛行機で帰ってくださることになり、秘書の塩川さんの手配で、空港から病院へ直行なさいました。私が病院へ伺ったときには、黒いタートル・ネックのセーターをお召しになつたまま、処置室のベッドで点滴を受けておいででしたが、それでも、「いうことを聞いて良かったよ」と片目をつぶってお見せになる程お元気でした。そして、4度目のご入院となりました。最後のご入院でした。

ご昇天なさつた11月11日、偶然にも、その日のお昼頃私は病院へ伺いました。その頃は、手製のスープを殊の外喜んで召し上つて下さつたので、その日もスープをお持ちしました。お薬の為に口腔内がひどくただれて、お痛みが強く、リキユールやスバイスが入つたレストラン製のスープは召し上れなかつたのです。帰ろうとする私に、手を差しのべられて、「サンキユー・フィール・ベター」とおっしゃるなど、ご気分の良いご様子でしたので、その日のうちに、知らせが届くなどと思つてもみませんでした。病院へ急いだ私に、青木さんの妹さんが、「貴女のスープが最後の召し上りものになつたのよ」と告げてくださいました。

「明日のスープの為に野菜を煮ていた火を止めて、病院へ向かつた時の空しさが、今も私によみがえります。」

2年程前から、青木さんは「馬のふる里」遠

野を背景に、その地で生まれ育つ馬の記録を残したいと、映画づくりを計画され着々と実行に移して居られました。また、「余生を遠野で、馬と共に過す事は青木さんの夢でしたが、その夢も、土地を手に入れ、建物の相談をなさる程に、現実の世界に近づいていました。病室で、あるいは病院を抜け出してお席で、集められた資料を前にして本当にお楽しそうなお様子を拝見し、一刻も早く映画が完成するのを願ひ、どんなことがあつても、遠野での「くらし」を実現させてさし上げた」と念じました。

御病弱でいらした奥様に気がねをなさり馬術部や遠野のことは出来るだけ内緒になさり、遠野へお出かけのときは、事前に奥様をお食事に誘い出されて、その後でさりげなく、お出かけの件を切り出された、など何うと、今、その奥さまが、ご遺志を継がれて、馬術部や遠野の為に心を砕いて下さつていらっしゃるさまをご覧になつて、天国で、青木さんがどんなお顔をなさつていらつしやるか、と、一瞬心む気がします。

あと3年、1年、いやせめて半年でもと、早過ぎたご他界を惜しむ気持ちをそのままご遺志に注いで、馬術部発展の為に、私達OBが心を一つにして力を添えなければ……と、青木さんを想うたびに思ふのです。

赤嶋たみ子（昭³³短卒）



ありし日の青木前監督

青木前監督のご冥福を

お祈りします

自動車、火災等の損害保険・生命保険……

すべての保険の相談

は「日税」にお任せ下さい

テレホンサービス **03-367-5331**

株式会社 **日税サービス**

東京都新宿区西新宿7-18-18 (新宿税理士ビル)
〒160 TEL (03) 367-5331 (代)

新城直樹

(昭和28年卒)

空間の有効利用をお考えなら

「光」にお任せください。

おかげさまで
21周年

設計から施工まで

Hikari



株式会社 **光工業社**

〒135 東京都江東区枝川2-4-14
お問合せは TEL(03)646-7151(代)

福原美里(昭31年卒)

保険の内容は国内各社ほとんど同じです。
 大きな違いが出るのは、あなたが依頼されるエイジェントの差です。
 世界中からあなたの希望する保険を提供します。
 ぜひ一度、私共へ御相談下さい。

株式会社 鈴木保険事務所
 代表取締役 鈴木 敏治
 (昭39年卒)

東京都江東区深川1-1-5 和倉ビル
 〒135 電話(03)630-0763(代)

医療保険・ガン保険・生命保険各種・傷害保険・自動車保険・所得補償保険・火災保険等

今、緑の風につつまれて……。 **ロイヤルパークテニスクラブ**

〒350 埼玉県川越市鯉井新田4-1
 ☎0492-33-0221

美容と健康のために
 汗を流しませんか？

今 泉 博(昭45年卒)

	入会金	年会費
ロイヤル会員(5年)		
正会員	150,000円	48,000円
家族会員	100,000円	48,000円
平日会員	75,000円	30,000円
短期会員(2年)		
正会員	60,000円	48,000円
家族会員	40,000円	48,000円
平日会員	30,000円	30,000円
学生平日会員	20,000円	30,000円

コート	オールウェザーコート(0面)、屋外(1面)、クレーコート4面、ナイター6面
クラブハウス	ロッカールーム、シャワールーム、プロショップ、喫茶室
営業時間	AM 9:00-PM 9:00 年中無休
スタイル	4月15日より開校

<交通>

東武東上線鶴ヶ島駅下車徒歩2分



コ ー ト オールウェザーコート(0面)、屋外(1面)、クレーコート4面、ナイター6面
 クラブハウス ロッカールーム、シャワールーム、プロショップ、喫茶室
 営業時間 AM 9:00-PM 9:00 年中無休
 スタイル 4月15日より開校



馬と部員とOBと



祝 青山学院大学体育会馬術部 60周年 /

乗馬服装・乗馬用品一式取扱専門店
有限会社 モリシタ
代表取締役 森下勝憲
〒141 東京都品川区上大崎3-2-9
電話 03-441-2922



SUSUCC & CO., LTD.
GENERAL STORE MERCHANTS
IMPORTERS & EXPORTERS

堤 義 則 (昭37年卒)

DISTRIBUTOR FOR :

SIKA

Industrial-Thermometers

25, KAMOME-CHO, NAKA-KU, YOKOHAMA

TEL. (045) 621-6341

CABLE ADDRESS

SUSUCC YOKOHAMA

TELEX: 3823486 SUSUCC J

馬匹紹介

現在、網島の馬場には13頭のおウマさんたちがいます。それぞれの馬匹係が紹介してくれました。なお、カツコ内は愛称、あるいは競走馬時代の名称です。



青将

青将 (シヨウゲン) セン。鹿。サラ

昭和52年5月18日生、北海道産

フォンタラバル

マルヒウブメ (チャイナロック)

かつての競走馬名をイナリシヨウゲンといつたこの馬は、明け3歳。しかしまだまだいたずらで、人を喫んだり、なめたり、茶目つ氣たつぶりです。4年前、わが部に来て以来、馬場馬術の調教をうけ、全日本学生をはじめとして数多くの競技会に出場してきました。馬場馬に求められる素質であるすぐれた馬格、歩様の美しさなどを持つこの馬に、見る者は思わずひきこまれてしまいます。青将号、將軍はその名の通り、これからの活躍がますます期待されるわが部の優秀な試合馬の一頭です。



チャップ セン。鹿。アングロアラブ

昭和49年4月21日生

10歳の鹿毛の障害馬です。アパロン乗馬学校からわが校へ来て1年と4カ月。近年、高い水準を誇る馬匹の中でもひときわ目立つ存在です。

小柄ながらも均整のとれた馬体に秘めた力に、その名の通り「覇者」たるものをうかがうことができます。今後、乗り手の技術が一層充実するとともに、競技会での好成績が期待できる馬だといえます。

チャップ



青雄 (シソキスパー) セン。鹿。サラ

昭和52年3月24日生、北海道産

トラフィック

ミツルノイチ (ガーサント)

青雄ことシソキスパーは、わが部で一番大きく、まさに見上げんばかりの馬です。体はすばらしいのに、どういいうわけか小心者で困

ることもしばしば。障害を飛んだあとの怪我の治療など大騒ぎで、ほんの小さなキズを消毒するのにひと苦労です。障害馬として第一線で活躍していますが、馬場も踏める総合馬です。性格は少々短気で、蹴ったり人の足を踏んだりしますが、かわいがるとなついで大きな体で甘えてくるのがなんともかわいく、世話のしがいのある馬です。

青雄



ウ
ウ



青遠

青遠 (チビ)

牡・黒鹿・サラ系

昭和49年8月1日生、岩手県遠野市産

タケブエ

ユイセイハッピー(ユウセイ)

青遠号は、チビという愛称でみんなからかわいがられているとても小さな馬です。小さな体に似合わず、障害飛越も大変得意としています。先頃行われた全日本総合馬術大会でも、ジュニア班で5位に入賞し、総合馬とし

ても大活躍中です。いま、当大学に所属している13頭の馬匹のうちでも一番の古株ですが、いつまでも甘えん坊で、もうすぐ10歳になるとは思えないほどです。大変なおてんば娘ですが、これからますます馬場馬術に障害飛越にと、幅広く活躍してくれることでしょう。

ウ
ウ

青妃



青妃 (フライングミミ) 牡・黒鹿・サラ

昭和49年5月1日、北海道産

ブランドブルー

フライングビミー (ゲイミー)

青妃号、フライングミミは、鹿毛の女の子。今年で明けて10歳となりました。わが馬術部に來たのは2年前。それからの成長はめざましく、今や障害においては青学馬術部が誇りとする試合馬であり、また、障害のこわさを感じさせない最適な練習馬でもあるのです。昨年の秋には、全日本の障害飛越競技に出場、その他様々な試合に参加しています。これらの活躍に大きな期待が寄せられ、クラブのみんなからかわいがられている一頭です。

ウツ

青驥 (ヘソチク) セン・黒鹿・サラ

フィリユース

ミスエリート (クレイマント)

昭和51年4月26日生、青森県産

青驥号、愛称はなぜかへんちく、愛らしい中にちらりと見せる個性がとても魅力的な馬です。練習馬として下級生が乗ることが多く、障害の試合や貸与馬として使われるなど、目立たないけれど部のためにはなくてはならない存在です。貸与馬といっても、障害に向ければとぶ! という定評があり、その健気な姿に思わず声援を送ってしまうのです。



青驥

青凌 (エクセル) 蛎・栃栗・サラ

昭和47年5月20日生、北海道産

ダイハード

オーイサミ (シマタカ)

青凌号は愛称をエクセルといい、今生12歳になります。キャラメル色に近い柔毛と、サラサラのたてがみがチャームポイントなので

す。性格はおとなしく、人なつこいので誰からもかわいがられ、1年生にも安心して手入れできる馬の一頭です。障害馬として2回走行や総合競技に出場し、優秀な成績をおさめており、わが部の看板馬であります。昨年、野外走行「総合2日目」で右前陳を痛めて休馬すること約半年、しかし、春の訪れとともに再び元気に運動を始めました。



青凌



青仙

青仙（ミールバ）牡・鹿・サラ

昭和48年2月18日生、北海道産

ネブチューヌス

フサトロスター（タカクラヤマ）

明けて11歳となり、ようやく少し落ち着きがでてきましたが、入厩した当初はえらく臆病で外馬房（個室）には入れられなかつたくらいでした。他の馬が見えなくなってしまうと、もうだめなのです。故に、初めての競技

の時は大変な騒ぎで、汗びつしよりになつてなきわめいて、さらに出番前にはぶるぶる震えておりました。その後も競技に出る度にいななき続け、圧巻は最初の馬場馬術競技のときで、入場して敬礼するのと同時に頭を高くあげ、ヒヒーン！……乗っている人間はいつも恥かしい思いをさせられていたのですが、ようやく東都自馬の複合競技のとき、数えて6試合日でなかなくなりました。この時は、この馬なりに成長しているのかな？としみじみ感じました。

ウ
ウ

武尊（スズバシフィック）牡・栗・サラ

昭和51年3月10日生、青森県産

ストロングエイト

スズシラギク（ラークスパー）

武尊号は4月26日、美浦T・Cよりわが部に入厩してきました。彼は7歳の栗毛の牡馬で、競走馬時代はスズバシフィックという名前で走っており、戦績は40戦3勝。彼は大変おとなしい馬で、初めて乗ったときも決してものを見たり音におどろいたりせず、マイペースで歩いていました。また彼はとても反動の少ない馬で、乗っていてとても楽でした。そのため最近では1年生の練習にも使えるようになり、初心者も乗っても彼はただひたすら蹄跡を歩いています。しかし一方で、なか



武尊

なか頑固なところもあり、何度か苦勞させられました。例えば、彼を美浦へ貰いにいったとき、馬運車に全然乗らず、一時間ばかり四苦八苦して乗せました。また、ウチに来て、馬房に一度入れると決して外にでようとせず、5人がかりでひっぱり出したこともありました。しかし最近は何れもなくなり、理想的な乗馬としてすくすく育っています。

彼は牡馬としても立派なものを持っており、そのため、彼の名、武尊は日本武尊からとり

ました。競走馬時代は障害においても安定した力を発揮していたので、これからも、障害や野外走行で素晴らしい力を見せてくれるでしょう。

ウツ

ハリー セン・牡・鹿毛・サラ

昭和50年4月29日生、北海道産

ファバージ

ユウゾラ



ハリー

ハリーは、現在、ウチの部の練習を見てくださっている松本昭四郎先生のおウマです。競走馬時代の名は「ユウズミ」。昭和53年のサクラシヨウリの勝った第45回ダービーにも出走した…という、今いる馬の中で、一番走った馬。それに今いる馬の中で、一番偉大な一頭なのです。写真を見て頂ければおわかりいただけるように、筋肉隆々のいかにもパワーがありそうな感じでしょうか？ 本当に何でもやっちゃんですよね。もともと馬場馬ですけど、前には障害をやったことも…。反動が少々(?)高くて、まわりで見るとちょっと…いえ…かなりきつそうです。

ウツ

ステイング セン・牡・鹿毛・サラ

昭和55年4月30日生、北海道産

スーパーサム

ミノルホマレ

ステイング君は、今年の3月に、松本先生が美浦トレーニングセンターから買っていらした馬です。まだ4歳と若く、これからが期待されている1頭。競走名はスピードソウリユウといい、新馬戦で1回しか使われていないようです。ちょっとした臆病者で、はじめのうち、反対手前で運動している馬とすれば、おおうものなら、ヒョソツとばかりに横へ飛びのいて、鞍上の人はいつの間にか砂上の人

ステイング



になっっていることもしばしば。最近はずい分落ち着いてきたみたいです。

ウツ

プリンセス・ケイ 牡・鹿毛・サラ

昭和55年4月11日生、北海道産

ダイゴウ

サマニトビオ

プリンセス・ケイ…ちょっと可愛い名で

しょう？ 別に私がつけたわけじゃないですけれど…競走名でこんな良い名ってついているの珍しい！！ まあそれはいいとして、彼女も、美浦トシセツから譲りうけてきたのです。…といつても未出走なんです。でも乗馬としてはかなりの大物というウワサで、まだ、ウチへきて2カ月とちよつとですが、もう単一の障害



プリンセス・ケイ



写真にはないのですが、新しく、アバロン乗馬学校から購入した馬です。まだ5歳ですが、アバロンの武宮先生は、「この馬は天才だ。障害をとぶために生まれてきたような馬だ。…とおっしゃっています。1メートル40センチぐらいの障害までは、人間は、ただ乗っているだけでOK。止まりも切りもしないという、どえらい馬なのです。そんな彼女も、やはりまだ5歳。見るもの聞くもの全てに好奇心をしめし、性格もおとなしい人なるこい良い子なのです。

フライデー 編・社・鹿毛・サラ
 昭和54年4月24日生、北海道産

フォンクラバル
 タニノデボネア

祝 青山学院大学体育会馬術部 60周年



営業品目

西独ステーベン社馬具販売店
 乗馬用長靴 高級保存型
 軽便保存型、拍車各種、バック各色
 ドイツ製ゴム長各サイズ有り

創業70有余年

有限会社 東京 稲毛屋

東京都渋谷区神宮前6丁目11番4号
 TEL (400) 5929
 コタフタ



部員紹介

川野 孝徳〈史4 前主将 前関東幹事〉

麻雀と競馬をこよなく愛する……とか書く
と、たいへんなギャソプラーという感じですが、川野さんの場合はちよつと違う……。競走馬の血統ならこの方に聞けばわかるという、競馬版生き辞引きなのです。けれどこの1年はもっぱらクラブ一筋！主将という大変なお仕事をしつかり務められた頼もしい方です。昨年の6月ごろ、落馬して腰を悪くしたために長いこと馬に乗ることができなかつたのですが、今はもうばつちりです。1年生のなかにも川野さんの熱心なファンがいて……このっ！ にくいねっ!!

笹川 薫〈史4 前副将・会計〉

実は笹川さんも秘かに麻雀と競馬がだあいすきき何でも卒業したら、トラックマン（競馬予想紙の記者）におなりになりたいとか……、笹川さんは副将であると同時に会計もやっておられました。過去ずっと赤字続きだった我が部の金庫をはじめて赤字にした……という偉大な方なのです。ところでこの笹川さんにも1年生のなかにファンが……別に誰とはいいませんけど……こちらもかなり熱心でして、ハイ。ねっ さんっ!!

込山 博幸〈済3 高等部担当・馬匹係〉

あの細い身体はどこから、あのパワーがでてるのだろう……とまわりの人間に思わせるほど、彼は細いんです。「マツチ棒」という噂もあるとかないとか……少年「というニックネームが高1のところからついているのですが、今はその面影は……「いえいえ、「ない」なんて私は口がさけてもいえません。高等部コーチである込山君は、高校生の試合の前など練習を見るのにも熱がこもります。つい熱くなりすぎて怒鳴つたりとかもしれませんが練習が終つて高校生が「ありがとうございまして」と声を揃えていうと、それまでブスツとしていたコミヤマ君、急にヘラ〜とかして「ありがとうなんて言われちゃつた」です。この態度のかわりようつたら……そこが彼のいいところかもしれませんね……。

高久 秀康〈嘗〃新主将主務〉

この高久君と、この次に御紹介する金子君は毎日、馬場で奇声を発しつっみんなを笑わせてくれます。でも、ひとたび馬にまたがれば、あるいは練習を見始めれば、つい先刻のおかしさはどこへやら。「アホ!」「タコ!」「バカー!」の連発で、はたで見ている方までむ震えあがってしまいます。新主将という厄介な仕事を、そうでなくてもいろいろ忙しい彼は、ちゃんとやってくれることと思

ます。御本人曰く「俺は暗い」……どっこが暗いと思われまふ……皆皆さん!。

金子 亮一〈史3 関東幹事〉

何をするのにも一生懸命な金子君。勿論、高久君とふざけるのも一生懸命?!わつごめん……競馬場バイトのときや他の大学の人に「金子くんって、あのクマの子みたいかわい、いい子でしょ〜」といわれるほどのキャラクターの持ち主なのです。関東幹事のころから、もうほとんど幹事として大活躍! 関東学生の試合となると、使役に、選手にと、ウチで一番忙しいのはもしかして、彼なんじゃないかしらん。ゴクロウサマデス。

宮尾 元子〈英米文3 女子責任者・

関東幹事〉

他の人があまりやりたくないかと思うことを進んでひきうけてくれちゃう宮尾タン。ひとつ上の学年に女子部員がいなかったために、早くから女子責任者という大変なお仕事をこなしてきています。それだけでなく、宮尾クソも金子君と同様、ほとんど関東幹事として試合ともなると大わらわ。そんな彼女に本当にもう脱帽です。

窪田 美砂〈英米文3 会計補佐〉

人力車をひく真似とが、クラブの人の特徴

をつかまえて真似するのがとにかくうまい美砂りんです。あれはやつぱりひとつの才能でしょうナ。会計の笹川さんの下で会計補佐をしており、年度末にもなると、毎晩、ほとんど睡眠もとらずに帳簿とにらめっこをし、計算機をたたいて収支決算を出すために死にも苦いなのです。それでも朝にはちゃんと馬場に來て練習するのです。スゴイ！の一言に尽きます。前に落馬して左手の中指を骨折してしまい、しばらく休部していたこともありましたが最近馬に乗ることもえています。

篠崎 夏実（教育3 副務）

主務の補佐としての副務もまた、なかなか忙しい役職なのです。とつてもしつかりしている夏実ちゃんは、それをも難無く（?!）こなしているのです。1年間ほど、ひざの怪我で全然乗ることができなかったのですが、今年の4月頃から復活して、熱のこもり様つたらもう大変！ さつそく選手権で関東選手になつちやったりして、馬に乗れるようになってから彼女は心なしが明るくなった……と思つているのは私ひとりでしょうか……。

佐々木 直美（英米文3 緑鞍会係）

3年の中で唯一の地方出身者の直美女史のあだ名はなぜか「さざえ」。入部して間もな

いころになんとなくついたのが今に至つているんです。修道院の女子寮に入つているさざえは清く正しく美しくの子なのです?! 障害練習のときに横木でのどをぶつけて声は何日もでなくなつたり、落馬したときに鎧から足が抜けずに足の筋を切つたりと、いつも生キズの絶えない人なのですヨネ。そう書くともすごーいはねつ返りみたいですが、実は、彼女ほどしつやかな人はいないとの評判（カゲの声「さざえいくらくれる。」）

松本 美紀（済3 緑鞍会係）

わが部の看板娘とはこの美紀ちゃんのこと！ 学生の試合だけでなく、一般の試合でも大活躍。同じ学校だつていうだけでちと鼻が高いんですヨネ。けど当の御本人、少しもおごることなく日夜練習に励む姿、そして誰ともわけへだてなく話したりできる！ そこいら辺が彼女の大きな魅力のひとつだと思ひます。ハイ。

本田 陽一郎（済2）

今の3年生から教養課程が厚木キャンパスに移転し、私たち3、4年にはわからないことも多く、そういつたことから一時、部を離れてしまつていたダツボンですが（それだけではないかもしれないけど）4月ごろからまた復帰してきてくれます。なにしろ2年は

男子ひとりで大変だとは思つのですが、これからはめげずにしつかりやつてもらいたいひとりでです！

竹内 晴美（日文2）

2年女子はこの竹内さんと次にご紹介する庄野さんのふたりがいるのですか、庄野さんは短大、4年制では彼女ひとりで、これもまた大変だと思ひます。私たち3年生は、人数が少ないということを経験したことがなくて、そういう点、彼女たち、の相談にはのりたくてもおれないといった感じでした。とつても動物が好きな竹内さんは当然、馬にも優しくして。これからも大変だろうけどガムバツテ！

庄野 勢津子（短大教養2）

一瞬、おとなしそうに見えるけれども、ところがどつこい。実は、とつてもおもしろいせつちゃんです。短大だから卒業といつても、下級生でおわつてしまつて、仕事とか作業とかたくさんあつてかわいそうっばいですが、持ち前の明るさで、こなしてくれています。

塚本 樹（菅1）

高等部のころから続けて入部して、他の乗馬クラブからも試合などに出場しているわりに、どこかネジがひとつ、ゆるんでいるどこ

るか、なくなっているという感じの子です。使役にでてもちよつと有名で……けど憎めない、いい子です。

岡村 敏彦（菅1）

彼も高等部のころから続いて（正確には一時、射撃部にいた）入部しました。この岡村君と前述の塚本君とあともうひとり高等部のころ“バケ三軍団”とか呼ばれていましたが、大学で残ったのは“バケ二”でした。クリスチャンであり、とつてもまじめな子なのですが、少々まじめすぎるとい話しもちらばら



柳田 智子（仏文1）

高等部から続いているもんだですが、高校を選ぶときに馬術部のあるところを選んだというくらいです。選手権でも上級生にまざり予選を次々と通過したどえらい子です!! これからが楽しみなひとりです。

河村 美木子（英米文1）

高等部2年のときに我が部に入ってきたミコです。明るいことこの上なく、誰とでも親しくなってしまうような不思議な魅力の持ち

主です。

恵 佳子（済1）

高校のころ、乗馬クラブでのついていたという恵は、一説によると、さざえこと佐々木直美とそっくりとか……。教習所に通っているとかいたとか……。おい安全運転しているかい？

太藤 千栄（菅1）

ウチの大学の女子寮である、スクーソメーカー寮にはいつているちえです。コンタクトレンズを馬の手入れをしている際に水に流してしまいメガネも割れるとかでおちこんでいたけど……、立ち直ったかや？

百武 幸子（短大1）

高校時代、バスケットをしていたというモモちゃん、なかなか運動神経もバツチリ！ はきはきしてとつてもさわやかな感じの女の子です。短大のシオン寮にはいついていて、大変だろうけど、ガンバです。

最後にこの『部員紹介』をかいてまいりました、私こと堀川万由美の自己紹介をえらそうにしてみたいと思います。仏文3年で全日本幹事をやっています。



荷物を運びたいが、車と人手が欲しい！
そんな時たよりになります。

商品の納品代行
小規模な引越等
貨物のタクシー

赤帽町谷原急便

町田市小川4-3-19
TEL 0427 (96) 3932
村野吉昌

部室の落書き帳より

わが馬術部の渋谷キャンパスの部室は、7号館の211号室です。そこには、授業が、もともとない人、休講になった人、本当はあるはずだけど……なぜかいる人(別に深く追求はしませんけどね……)とにかく、ウチのクラブの人たちが集っているのです。これだけ人が集まればどうしても落書きが増えるんですよ……。その結果、誕生したのが、この落書き帳なわけです。一冊書き終ると、誰が買ってくるのか、いつの間にか新しいノートがあるというふうに、気がついたら部室に4冊ほどありました。そのなかから過去3年くらいのものから、ちょっとおもしろおかしいものをいくつか選んでみました。

1 その1

昨日、厚木キャンパスまで勧誘に行きました。

ミキとGとサザエが馬装姿も麗しく(?!)
或る男の子一名に声をかけました。にこやかな笑顔で「一年生ですか」

「ハイ」

「馬術部ですけど馬に興味ありませんか？」

「よかったです説明聞いていかない。」……エ

トセトラ

ここいら辺までは精一杯愛想よくしてたのに

「馬? そんなに興味ありません」

と言って逃げだした彼氏! 3人の態度がヒョウ変したのはその時です!!

「なにヨ! かわいい女の子が3人で声をかけてやったのに」

とブツブツいって逃げた子をうらめしそうに見送りました。5分とたたないうちに別の子に、にこやかに話かけなければいけないと思うと、勧誘の難しさを思い知らされます。どつと疲れしました。きょうはラストだ。がんばる……と。

注 ミキ↓松本美紀

G↓窪田美砂

サザエ↓佐々木直美

(これをかいたのは恐らく佐々木さんです)

1 その2

2 回生にナントカナレタ(本当は「ナツタバカリノ」と書いてあるのですが、誰かが、それを赤いボールペンで消し、書きかえてあります。)高久氏は、春まだ浅い厚木市へ、4月12日、13日の両日、新入生勧誘のため厚木キャンパスへ出向いたのであった。高久氏は当然女の子には目もくれず、男の勧誘ばかりしようとするのだが、まわりがそれを許さな

かったのである。ある女子Aさんの場合……

高久氏(以下「T」と略す)「新入生の方ですか」

A「ええ」

T「馬術の者ですが説明を聞きたいと思いませんか?」

A「ええ……」馬術部なんですかあー? でも馬に乗るとガニ股になるんですよ?」

T「そんなことはありません。私を見てもらいなさい!」

A「あつ本当だ! 馬に乗ると足が長くなるんですね!!」

T「わかりますか? ははは……」

A「馬術部って、みんなかつこいい人ばかりなんですか?」

T「うーん?!: そうだなあ……そんなことないけどね!」

A「でもあー」(……といってTの目を熱のこもった視線で見上げる)

T「よわつたなあー!」

A「でも、こんな素敵な人とめぐりあえたんですもの私、もう死んでもいい!」

T「そんなこと言っちゃいけないよ! 生きるんだ、強く。そしてたくましく生きるんだあ!!」

……そして少女Aは明るくほほえみその場を去っていったのだった。 完!!

(これを書いたのは、高久秀康という、恐し

くアホな奴なのです。この次の行には、誰かが、尚、このことは誰にでもわかるフィクションです！”と書いてました。あたりまえですよネ。”

1 その3 1

（次のものも高久くんのもです。）

今日、わしはカバロへゴム長を買に行っ
た。

T「あのー、ゴム長ください。」

店員「サイズはおいくつでしょう？」

T「えーと、26ですね」

…と、ここまでは良かったのであるが…

店員「これどうでしょう？」

T「どれどれ？ なかなか良いですね！

これ、下さい!!」

ゴム長を脱ごうと下を向いたとたん、胸のポケットにはいつているタバコが一本ポロリ。あら落ちた！ と拾おうとすると、今度は2本！ あらあら、また落ちた！ と拾おうとすると今度は5、6本まとめて!!

店員「だ、だ、だいじょうぶですか？」

T「なに、だいじょうぶですよ、はは…」
と拾わんとすれば、なんと箱ごと落ちてしまった。結局、わしは下を向いたまま、5分

程カバロの床掃除をしまったのである。
あー たのしかった!!

カバロ↓馬事公苑の近くにある
馬具屋さん。本店は神戸です。

1 その4 1

（なぜかこのノートには高久クンに関する
こと）がとても多いのです…）

誰か心優しく正義感に燃えている人にお願
いします。くんたの病気を治してやってくだ
さい。病名は騒音公害病です。しゃべってい
るときは勿論、あの馬鹿笑い、スケベ笑い、
ラーメンを食ってるときは”ズルズルズル：

”、所かまわず鼻をかみ、眠ってるときは、
いびき、寝言、歯ぎしり、明け方の絶叫、24
時間を通して静かなときがありません。くん
たの一生の問題です。よろしく願います。

くんた↓高等部2年のころ、当時の主将
であった平松和雄さんが高久秀康にこの
ようなニツクネームをつけたのです。

…本当にうちわ話で、OBの方々が読んで
ら、ちょっとわからないかも…あつ、でも
馬術部に籍をおいてた方ならわかるかな…？
こんなふうに、しょうもないことを書いた
りしてヒマつぶししてるのです。まだまだ
いろいろありますが、ここではほんの一部を

御紹介いたしました。他のもごらんになりか
い方は、青山キャンパスの部室まで……。



→ 網島に美女ありき…
くんたがいなくて残念？（よかった）

遠野合宿日記

いななき荘日誌より

7月31日(土)

高等部の合宿で、朝のメニューとして、「うめぼし」のりのおにぎり と書いてあつて、そこから矢印がでていて、杉浦さんがしゃけのおにぎりがないと不満そうだった とありました。これを読んだとき、思わずその「不満そうな」杉浦さんのお顔が浮かんできて思わず笑ってしまいました。

8月5日(木)どえらい晴れ!

記入者 岩田、堀川

今日は休馬で起床が6時半
だけど安さんと宮尾クソが水野合宿のため
に帰ってしまつて……。この女子部屋がやら
らに広く思えます。

本当はみんなで三陸海岸へお弁当を持つて
ドライブに行く予定だったのにポニーバイト
がはいつて急にお流れ。それには、吉田さん、
杉浦さん、小野さんが行つてくださいました。
いななき荘に残された笹川さん、金子氏、岩
なほ、本田氏、ほりまゆはどうしようかと悩
んでいたのですが、結局、笹川さんが恐れ多
くもお留守番をしてくださることになり、4
人は、ほりまゆの車に乗り込み、一路、貞任
牧場へ行きました。そこで、馬の群れを見つ

けてから岩の上でお弁当を食べて、なんと2
時間半もおウマさんとたわむれてしまつたの
でした。もうかわいくてかわいくて……。ど
うしてあんなにおとなしいのでしょうか。皆、
それぞれにお気に入りのウマさんを見つけて
また来るからね! - とうしる髪ひかれる思い
で帰路についたのでした。

この2、3日、やたら麻雀が流行つていて
麻雀のわかつていない金子氏、岩なほ、ほり
まゆ……即ち2年生を除いた人たちが、じゃ
らこじやらこと音をたて、「ちー」とか「ぼ
ん」とかと呼びつつ、大変な燃えようです。

(今もとなりのテレビのあるお部屋では……)

(…中略…)

高校生がいなくなつて、ドツと人数が減り、
食事を作るにも、食べるにもなんか安心した
ような、さびしいような気がしちゃいます。
でも明日は、原さんと少年が来て、また活気
がでそつであります。

8月6日(金)朝のうち霧日中晴れ

今日は装蹄がありました。あの中屋敷さん
の根性の装蹄です。(注・どつして、根性の
装蹄。なのかというと、普通、装蹄というの
は火を使って、蹄鉄の形を蹄の形に合やすも
のです。しかし、この方の場合、火は一際使
用せず、汗だくになつて、鉄をたたき、そし
てまた、蹄を蹄鉄の形に合やす……というも

のだからなのです。金子氏と本田くんはもう
グツタリ……。

10時頃には原さんがご到着

岩なほはおナカの調子が悪くて……そうい
う自分も実は少々……。買物から帰つてみる
と、そこには大仏頭の込山少年が立っていた
のでした。わあーい

あー、きょうはなんとなく疲れてしまいま
した……。ねっ岩なほ、お腹大丈夫?

答「うん、だいぶね……。」

8月8日(日)くもり

記入者 岩田

男子合宿初日。午前当番のあと、男の子た
ちは、道路を通つてランニングで帰つてきた
のであります。苦しそう……と思つて、これ
から食当は栄養のバランスを考えたり、スタ
ミナのつくものを作つてあげなきゃと思いま
した。それにしても1年から3年までは総勢
5人。去年と殆んど顔ぶれが変わつていない!

8月9日(月)はれ

記入者 岩田

男子合宿2日目。きょうも、男の子たちは
センターから走つて帰ってきました。トップ
は昨日と同じく笹川さん、だんとつ! 唯一
の1年生の本田くんはタバコのせい(?)か

ドンペで疲れ果てていました。きょうの男の子の作業は畑の収穫と整理で、ピーマンさんや、大根さんが百億コ、山と積まれ、あまりの豊作に食当のおねーさんたちは、その野菜たちをいかに調理すべきか頭を悩ましてるんです。大根さんはなかなかひょうきんで、タコ型やヒト型などいろいろいましたが、ほとんどは泥がはいっていて、すだらけで彼ら専用のゴミ袋がいくつもできてしまったのであります。

8月15日(日)なまら晴れ

今日のバイト↓川野さん、本田くん、少年(前日の男子合宿の打ち上げの二日酔いで死んでて使いものならず)さざえ、竹内さん。きょうはなんとあのテムジンが登場したのです！昔とは違ってかわっての美しさ。あの変わりようよたら、なまらすごい。つっやっで、まるで貴公子のようでした。別人ならぬ別馬のようでしたネ。

金子氏と岩なほとミサリんと庄野せつことほりまゆの5人は、お得意の貞任へ行きしました。前回に見つけたお気に入り仔馬さんたちとの再会にもう大感激!! ほんの2週間の間に二回りぐらい大きく立派になった彼らの成長の早さに、ほんと、驚きました。話は前後しますアルバイトで使ってるポニー2頭: ミミーかピーさんか知らないのですが、幼稚

園くらいの女の子の胸をかんてしまつて、その父親は、と一つても怒つて「どうしてオリに入れておかないッ!」とかいつちやつて、ついにその女の子は、病院に行つてしまったのです。全く! かいを食べてるときにちよつかい出す方が悪いぞつ! あほつ!!

8月18日(水)

今日から女子合宿開始です。はりきつていきましよう! 今年はワラじゃないので、朝の作業がなまら早く終わりました。明日からは今朝ほど早く起きなくてもよさそうです。(ちなみに今朝の起床は時分でした。)

馬も10頭きりなので手入れが早くすみます。せん切り器があると楽です! 今日、なんかおもしろいこと、あつた? のどがいっぱいかわきました。風がとても良い気持ちです。男子は海に行つてます。

8月19日(木)

今朝、岩なほの前歯が半分折れました。アーメン! ぢゃあんー! さてどうしてでしょう 答||朝、馬場まで歩いていく間に走路のらち

をくぐらねばならない。その際に目の完全にさめきつていなかつた岩田女史は目をつぶつたまま、くぐるうとしたらしい……。そうしてガチツという鈍い音。突如

「ふえーん」

となはみちゃん。

「どーしたの?」

と篠崎サンと堀川サン。

「歯がかけちゃった〜」

なんだ、なんだ、と見てみれば図のように折れているではないですか! 残りの半分は・

と地面の上を3人ではいつくぼつて捜してみれば、あつたぜあつた! 白い歯ひとつ。それを拾い、洗いもせずになほみちゃんがかぼつとかけた歯をもあつたところへはめこんでしまったのです。それをさわつてみて

「大丈夫みたい:はまつたワ。」

けど、練習のはじまる前に号令者である安さんに

「今日は歯が落ちるので、注意していただいても返事できません」

つて断つてました。

「そんなにしっかりとるんだつたら、アロソナルファでくつつけちゃえ!」

とかみんな他人事だと思つて言つていました

(そついう自分もそのひとりだつたりして:。

ー 後日談 ー

東京に帰つてきてから、馬術部のみんなが

通っている網島の大垣歯科へ行って、本モノの歯と、寸分たがわぬさし歯をつくってもらっていました。

「これにて一件落着く」

8月20日(金)

青木さんの奥様がいらっしやいました。

8月22日(日)

「時」ころから男子のソフトボール大会が行われました。(対 駒木青年団チーム)引き続き夕方、女子(対7区チーム)及び男子(対 十八年会)のサッカー大会がくりひろげられたのであります。女子の方は奮闘の末、1対0で惜しくも敗れましたが、男子の方は、5対0で勝利の栄冠を手に入れたのです。みんな「いやだ、やったことない」などとぐずっていたのに、いざボールを追いはじめるとあのエクサイトぶり! 特に女子の応援がものすごく、それが男子の勝利をまねいた……という噂も……。ケンイチ君、カズ君らが加勢してくれてとにかくすごいハッスルぶりでした。そのあとの宴会で、皆、すでにうち上がりきっております。

8月24日(火)

きょうは打ち上げ。でも、この前のサッカー

大会のときすでにうちあがってしまったので、だいぶ疲れていた人が多かったようです。おしまい近くに少年とダッポンのケンカ事件で大騒ぎになりました。酒グセの悪いダッポンにはもうお酒はあげませーん。星空がきれいでした。原さんが生まれてはじめて流れ星を見たそうです。

ーというわけで、遠野合宿日記とはこんなものなのです。遠野での生活の中で、ちょっとばかり話題になったコトや、その他、えらんでみました。これで、少しでも遠野での私たちの生活がOB、OGの方々に知っていただけたら幸いです。

けれど、恐らく遠野も合宿として行くことはもう二度とないでしょう。今回、先発隊で行って、最後、いななぎ荘に鍵をかける時までずう〜と遠野に住んでた私こと堀川は、なんだか、とつても複雑な気持ちです。また行きたいナ……遠野に。



楽しくサンバを踊りましょう!



🎵🎵🎵🎵🎵🎵

お1人様→ 4,800円 以上

小人歌(10名様)のパーティーから70名様までお受けします。
外人バンドの生演奏とショーをたのしみませんか。
ご予算に合わせてメニューもご相談いたします。

★レストラン
サンバ パテオ

世田谷区奥沢6-33-14

昼間 TEL 705-2511

夜間 TEL 705-3751

営業時間/PM6時~AM2時

大塚 まりこ(昭44卒)

馬術部とアルバイト

市原昭十郎（昭32年卒）

馬術部は馬という生き物を養いながらのスポーツなので、いつの時代でも馬を養育費が部員の大きな負担でした。今回それぞれの年代での馬術部のアルバイトについてとの原稿依頼をうけまとめてみました。

現在、現役学生のアルバイトと云うと競馬場でのアルバイトが中心で大変の様ですが、私の在学期間は、昭和28年より昭和32年の4年間、当時は戦後再開された馬術部の創設の植松・沈・堀内などの諸先輩が卒業され次世代に移行していく時代でした。

馬匹は、青峯号、青妃号に始まり2頭より4頭までの世帯でした。当時は貧与馬競技が主力であり学校の馬は練習馬であり良い馬に乗り技術をみがくには、乗馬クラブで乗れとの事で、井上乘馬クラブ（今のNHKのところにあった）アバロン乗馬学校（井頭線永福町にあった）村上清執会（小田急線千蔵烏山にあった）そしてパレス乗馬クラブ（宮城内）などのクラブへ練習にかよっていた。私が一番かよったのは、井上乘馬クラブで、ここには昭和31年9月より我が馬術部のコーチとして来ていただいた故阿部先生がいて、「花車」(井上乘馬ではこの馬でしぼられた)できたえられたものです。

アルバイトの話は、これらの乗馬クラブよりあるもので、映画の馬の登場シーンへの出演でした。これらのアルバイトの中では、時代劇での馬を使った戦闘シーンへの人馬共々の出演と、劇映画への馬の出演についてスタジオにとまり込み馬の世話をするものもありました。時代劇の出演では三船敏郎が武蔵、鶴田浩二が小次郎、お通役を八千草薫が演じた「宮本武蔵」への人馬での出演（市原・渡辺・相馬の三人が野武士姿でならんだ写真がある）などがあります。そして、当時の学院の名馬？青妃号が、第2回のダービー優勝馬トキノミノル号になった「まぼろしの馬」と云う映画がある、これは、大映の永田社長の持馬であったトキノミノルを記念して作られた伝記映画で、北海道より競争馬として上京してダービー前より優勝するまでの厩舎でのシーンで青妃号がトキノミノルになるわけです。サラブレッドでもなく、顔も大きくスマートでもない青妃号ですが、映画の中ではトキノミノルとして立派なものでした。この時は、大映の多摩川撮影所に藤根先輩と泊まりこんで、おかげで映画撮映所の内情が良く判かった。映画監督は島耕治氏で、撮影中に、丁度行われた日本ダービーで、映画に出演する二本柳騎手との関係で、本命馬でなかったオートキツの馬券を島監督が買いそのオートキツが優勝して大穴が出て、関係者が大騒ぎして

いたのも印象的でした。以上が我々の時代のアルバイトの一部です。その他、馬糧費をかせぐため、当時流行のジャズスイングによる音楽会、また一流バンド出演のダンスパーティーなどを開催していました。

我々の時代は、終戦後の、物不足時代より、ようやく裕福になり始めようとしている時代にあつたので、貧しい事も恥かしくない時代で田舎者から都會育ちまでの若者がまじり合つて、楽しく楽しく過ごした馬術部時代でした。



川嶋 透（昭45卒）

馬術部に入り馬を食わしてゆくため色々なアルバイトをやつたものである。真夏の暑い日、建造中の船の内装工事、深夜の口ケのエキストラなど辛い仕事もおもしろい仕事も馬を食わしていくため色々やつたものである。シーズンオフに自分の小遣いを稼ぐために、アルバイトをしている他の運動部の連中をうらやましく思つたこともあつたが、部活動の一環と割り切つて一所懸命にやつた。

一番回数が多かつたのは、競馬場でのアルバイトであつた。男女2名ずつ4名で土、日の開催日に府中か中山かへ行くのである。仕事の内容は極めて簡単なもので、レースとレースの合間、走路を通つて馬術内に入る入

場者の為に綱を張って、通路を作ったり、入場者を数えたり、入着した馬が尿検査の為診療所に行くのに同行して監視したりといった退屈なものばかりであった。

当然競馬というものに興味を持つようになる。生まれて初めて馬券を買ったのは、入部して間もない頃の日本ダービーである。先輩たちがむずかしそうな新聞を見ながら「ショウグン」が強いとか、いや「ナスノコトブキ」だとか「ニホンピロエース」だとか勝手な予想をしていたが、ナント優勝した馬は誰も予想をしなかった「テイトオー」という馬で、着も「ソロモン」が来て穴馬券となった。当然私の買った馬券も紙くずとなった。私は根が凝り性なもので、よし来年は先輩たちの鼻を明かしてやろうと競馬の研究を開始したのである。むずかしそうに思えた競馬新聞も慣れてきたらおもしろいもので、一日中飽きもせずに見ていたこともあった。アルバイトに行くというよりはレースを見に行くわけで、アルバイトもまた楽しいものであった。特に競馬の好きな先輩や同期の者と一緒の時は楽しさも格別であった。

り返ると腕力の強そうな坊主頭の男であった。当然中央管理室に連行され、こつびどく怒られ油をしぼられた。

収支決算はというと、競馬は本当に当らないようにできているもので、いつも損ばかりしていた。それでも今度のダービーこそはと三才馬の研究には余念がなかった。

いよいよダービーの日が来た。ダービー当日は部員全員でアルバイトに行くことになっている。朝から五月時の素晴らしい天気であった。良馬場まぢがいなし。ダービー当日は普段やったことのない仕事が多い。さすがに上級生はさつさと楽な仕事を取ってしまう。私の役目は投票券売場の中に入つての警備であった。きょうはとても馬券は買えそうにないと思ひ、昼食休憩時に前売を買った。一年がかりで研究して来たので迷いはなかった。偶然、線鞍会々員の手塚栄一さんの持ち馬であった「アサデンコウ」の単勝と、「アサデンコウ」から、枠の「ヤマニニカップ」と7枠の「モニタサン」の連勝複式をそれぞれ買った。

ダービーの発走時刻がせまってきたが、仕事だけが仕事だけに持ち場を離れるわけにはいかない。しかし、レースだけは是非でも見たい、思い悩んだ揚げ句、主任(女性)に「ダービーを見たいんです。ちょっと抜けていいでしょうか」

と頼んだ。太った中年の主任が私を眼鏡越しに見て

「私は15年この仕事をしています、レースを見たいから抜けていいですかといつて来た人はひとりもいません」

とあきれた顔で言った。

「本当は行かせるわけにはいかないけど、そんなに見たいなら行つてらっしゃい」

と心よく許可をくれたのである。ついでに貴品席で見ると良いと行き方までも教えてくれたのである。私は礼をいうのもそこそこ小走でスタンドに向つた。赤いじゅうたんを敷きつめた貴品席から下を見下すと人、人、人でギツシリ埋まっている。走路の方は、10分程前突如として雷が鳴りにわか雨が降った後なので、太陽の光を芝についた露が反射し、まばゆいばかりに光っていた。まさに「アサデンコウ」が勝つことを暗示するかのようであった。

大喚声の中でスタートが切られた。28頭の優駿が栄光を目指し先を争って第一コーナーに……。第4コーナーを回つて最後の直線コースに入った。果して、直線で抜け出して来たのは人気の「リユウズキ」や「ホウゲツオ」でなく「アサデンコウ」であった。2番手も「ヤマニニカップ」と、枠の「シバフジ」であった。知らずに大声で「アサデンコウ」に声援を送っていた。アサデンコウは2着ヤ

マニッカップを寄せつけず、1着でゴールを通過した。やったぞ！ やったぞ！アサデンコウだ、オレの思った通りだ。

しかしどうしたことだ!! 優勝したアサデンコウがピッコを引いている。

不幸にもアサデンコウは骨折しながらゴールを切ったのであった。アサデンコウこそ、走るための宿命を背負わされた真のサラブレッドの姿であった。その後のアサデンコウは骨折の影響でたいした活躍もできず、淋しく引退していった。

いま、私は競馬を見ることも馬券を買うこともほとんどない。そしてアルバイトの思い出とともに、このアサデンコウのことが一番強く印象に残っているのである。

こんなことを書くときアルバイトを真面目にやっていないように取られるかも知れないが、みんな一所懸命によく働いたと思う。アルバイトが縁となり、競走馬にむかなくなつた馬を中央競馬会より寄付してもらつたり、安く払い下げてもらつたりした。また競馬会の施設を借りて合宿までさせてもらつた。まさに中央競馬会様々であった。

私たちの代から、学生馬術もサラブレッドの時代に突入したといえる。試合に出場してくる馬の競走馬時代を知っていると非常におもしろいもので、あの馬はダービー何着だったとか、何々賞に勝つた馬とかなつかしさでいっぱいであつた。ある日入厩して来た馬を

見てびっくりした。私が馬券で儲けさせてもらった馬ではないか、その馬にニヤニヤして乗っていたら、急に暴れ出して私は振り落されてしまった。

アルバイト現況

競競場

東京(年5、開催40日) (1、2月、4、6月、10、11月) 1馬体重、検体(入着馬の検尿に立ち合う)

中山(年5、開催40日) (1、3、4、9、12月) 1馬体重、ゼッケン渡し(馬装前の騎手にゼッケンを手渡す)、ポロ落とし(馬装を終えた厩舎のポロをとる)、時々、足上げ、馬洗い、馬体重などを行うこともある。

使役(競技会)

男子- 障碍の設置、片付け、洗い、警備、駐車場内(ハコバン)、厩舎検察、厩舎バイト

女子- 馬場の経路読み、表書き、接待、集計

真木氏バイト (不定期)

風船を作つて配る、ソーメン、化粧品、消臭芳香剤の販売など。

輸送バイト

馬輸送、あるいは、馬運車貸与

その他(昨年行ったもの)

福原氏バイト- スチール棚の組み立て、配達、斉藤氏バイト- クーラーの取り付け、原野氏バイト- ピラ配り、選挙バイト- ポスターはがし、大和運輸- お中元の配達、曳き馬バイト- テムジン、農林水産祭り、遠野水光園、アドロンバイト- 厩舎作業、撮影バイト- 雑誌撮影に馬を貸与。

高級乗馬靴・各種乗馬用品

習 志 野 稲 毛 屋

創立大正元年 (有)習志野稲毛屋靴店

東京 渋谷区神宮前6-11-7 千葉 流山市鱈ヶ崎703-1

T E L 03(407)0307 千150 T E L 0471(59)4032 千270-01

昭和55年度成績

- 5月25日 対東北学院定期戦 総減点7vs25で本学の勝ち 最優秀選手：杉浦敦
- 6月4日～6日 関東学生馬術争覇戦 1回戦 vs東海 3：1で勝ち / 2回戦 vs独協 2：2 総減点で敗退
- 6月7日 関東学生馬術選手権大会予選(あぶみあげ) 矢作直也, 清水文子通過一決勝進出
- 6月14日 関東馬術大会 第三課目 第4位 清水文子(青遠)
- 6月22日 関東学生馬術選手権, 関東学生馬術女子選手権決勝 矢作直也, 清水文子一関東選手として全日本学生馬術選手権出場権を獲得
- 9月14日, 15日 関東学生女子競技会 馬場馬術 団体2位 / 個人 第2位 大山祥子(青遠) 第6位 清水文子(クイーンエリザベス)
- 9月27日, 28日 ユドラ号記念馬術大会 第二課目 第2位 森美津子(青蓮) 第5位 篠崎一郎(青遠)
- 11月7日～9日 全日本学生馬術選手権, 全日本学生馬術女子選手権 矢作直也 準々決勝にて敗退 / 清水文子 準決勝にて敗退
- 2月 対学習院定期戦 本学の勝ち
- 3月8日, 9日 関東学生新人競技会 オープン戦 第4位 副島信幸(青崇)
- 3月21日, 22日 東都大学馬術トーナメント 1回戦 vs専修Bチームに1：3で負け

昭和56年度成績

- 4月18日 東都大学馬術競技会 団体6位 学生賞典 清水文子(青遠第9位 / 青将第17位)
- 5月15日～17日 全国都道府県馬術大会(アパロン大会) 新馬馬場 第5位 清水文子(青将)
- 5月22日～24日 関東学生馬術競技会 学生賞典 団体5位 / 個人 第15位 清水文子(青将) 一全日本学生馬場馬術競技会出場権獲得 / 第23位 豊川朱美(青雪) / 第29位 吉田重夫(青遠)
- 6月7日 関東学生馬術選手権, 関東学生馬術女子選手権予選(あぶみあげ) 清水文子一前年度関東選手のためシード 豊川朱美 通過 決勝進出
- 6月15日 対東北学院定期戦 総減点3vs13で本学の勝ち 最優秀選手：吉田重夫
- 6月20日, 21日 関東学生馬術選手権, 同女子選手権決勝 清水文子, 豊川朱美ともに敗退
- 10月17日, 18日 関東学生女子競技会 団体総合3位 / 馬場団体2位 馬場個人 第3位 清水文子(青将) / 第7位 豊川朱美(ハリー) / 第9位 松本美紀(青雄) / 障害 松本美紀(青雄), 篠崎夏実(青遠)
- 10月24日 オリンピック記念馬術大会 総合初級馬場 学生班 第4位 込山博幸(青将) 婦人班 優勝 松本美紀(ハリー)
- 11月17日 全日本学生馬場馬術競技会 第39位 吉田重夫(青将)
- 2月20日, 21日 神奈川県大会 第三課目 第3位 松本美紀(ハリー) / 第二課目 第9位 笹川薫(青将) / 小障害 杉浦敦(青雄) 吉田重夫(青麗) 婦人障害 松本美紀(青遠) 安五仙(青妃) 原香魚子(青凌) 全頭減点0
- 2月28日 対学習院定期戦 本学の勝ち
- 3月6日 関東学生新人競技会 第21位 杉浦敦(青雄)

3月24日, 25日 **東都大学馬術トーナメント** 優勝(1回戦vs日大A3:1で勝ち, 2回戦vs農工5:1で勝ち, 3回戦vs農大5:1で勝ち, 決勝vs立教5:1で勝ち/最優秀選手:吉田重夫/優秀選手:川野孝徳/優秀馬匹 青崇, 青麗

昭和57年度成績

4月14日~19日 **東都大学馬術競技会** 団体総合4位/標準障害 第8位 松本美紀(青凌)/学生賞典第12位 松本美紀(ハリー) 第13位 吉田重夫(青将)

5月14日, 15日 **関東学生障害飛越競技会(二回走行)** 第9位 込山博幸(青凌)第23位 松本美紀(青雄)一全日本学生障害飛越競技会団体出場権獲得

5月16日 **関東学生馬場馬術競技会** 第9位 松本美紀(ハリー)第14位 笹川薫(青将)第21位 吉田重夫(青遠)一全日本学生馬場馬術競技会団体出場権獲得

5月22日, 23日 **全国都道府県馬術大会(アパロン大会)** 中障害C(標準)第4位 杉浦敦(チャップ)/中障害C(二段階)第4位 川野孝徳(チャップ)/婦人障害 優勝 松本美紀(チャップ)

6月6日 **対東北学院定期戦** 総減点16vs35で大学の負け

6月17日~19日 **関東学生馬術争覇戦** 1回戦vs慶応医科 総減点326vs246で大学の負け/優秀馬匹 青麗 青崇

6月20日 **関東学生馬術選手権, 同女子選手権予選(あぶみあげ)** 原香魚子, 松本美紀通過決勝進出

6月27日 **ユドラ号記念馬術大会** 第二課目 第3位 松本美紀(ハリー)第5位 原香魚子(青将)

7月3日~5日 **関東学生総合馬術競技会く3-DAY EVENT)** 第21位 込山博幸(青凌)一全日本学生出場権獲得

7月 **関東学生馬術選手権, 同女子選手権** 第5位 松本美紀 関東選手 全日本学生馬術女子選手権 出場権獲得

9月15日 **綾瀬乗馬馬術大会** 小障害 第2位 安玉仙(青妃)/中障害 第3位 笹川薫(青妃)

10月2日, 3日 **関東学生馬術女子競技会** 団体総合2位/馬場団体2位 個人第3位 松本美紀(ハリー)第9位 原香魚子(青将)/障害団体優勝 個人優勝 松本美紀(チャップ)第3位 安玉仙(青妃) 第6位 松本美紀(青雄) 第7位 原香魚子(青凌)

10月9日~11日 **オリンピック記念馬術大会** 総合初級馬場 第7位 岩田なほみ(青将)/標準障害A 第2位 笹川薫(青妃)/ドレツサージュ 優勝 松本美紀(ハリー) 第8位 笹川薫(青将)

10月16日 **世田谷区民大会** 標準障害 優勝 金子亮一(青凌)/ジムカーナ 優勝(青麗)

10月30日 **全日本学生馬場馬術競技会** 団体5位/個人第3位 松本美紀(ハリー)第13位 笹川薫(青将)第31位 高久秀康(青遠)

11月3日, 4日 **全日本学生障害飛越競技会(二回走行)** 団体18位/込山博幸(青凌)笹川薫(青妃)松本美紀(青雄)

11月6日~8日 **全日本学生総合馬術競技会(3-DAY EVENT)** 込山博幸(青凌)3日目棄権

11月27日, 28日 **東京馬術大会** 標準障害B 第2位 笹川薫(青妃)/ジュニア予選馬場 一般班 第3位 込山博幸(ハリー)/婦人班 第8位 岩田なほみ(青駿)/標準障害C 第3位 川野孝徳(青雄)

12月3日~3日 **全日本学生馬術女子競技会** 第3位 松本美紀

- 12月5日 **八王子乗馬クラブ馬術大会** 小障害 川野孝徳(青仙)
- 2月6日 **アシェンダ馬術大会** 小障害 第3位 松本美紀(青雄)/チーム対抗 優勝 高久秀康(青遠)
&松本美紀(青雄)
- 2月19日,20日 **神奈川県馬術大会** 第4位 高久秀康(青遠)/小障害 第2位 高久秀康(青遠)第
3位 笹川薫(青妃)/第三課目 第5位 松本美紀(ハリー)
- 2月26日,27日 **スクーリングジャンプ** 初級障害 第2位 笹川薫(青妃)第3位 高久秀康(青遠)
/中級障害 優勝 笹川薫(青妃)
- 3月6日 **対学習院定期戦** 2:1で本学の勝ち
- 3月19日,20日 **関東学生馬術新人競技会** 新人戦 第11位 川野孝徳(青遠)/新馬戦 最秀馬 青仙
(川野孝徳)
- 3月25日~27日 **全日本総合馬術大会** ジュニア競技 第5位 込山博幸(青遠)第8位 松本美紀(青雄)

昭和58年度成績

- 4月1日,2日 **東都大学馬術トーナメント** 1回戦vs専修Aに1:3で負け
- 4月9日,10日 **トキノアラシ号記念馬術大会** 中障害C 第1班 第3位 笹川薫(チャップ)第3班
第8位 込山博幸(青遠)
- 4月16日,17日 **東都大学馬術競技会** 団体4位/複合馬術 第10位 松本美紀(青雄)第11位 込山博幸
(青遠)オープン 川野孝徳(青仙)/学生賞典 第3位 松本美紀/女子障害 第7位
佐々木直美(青妃)第8位 松本美紀(青雄)
- 5月5日~8日 **馬事公苑大会** セント・ジョージ賞典 第6位 松本美紀(ハリー)/点取り競技 第10位
金子亮一(青妃)
- 5月12日~14日 **関東学生馬術争覇戦** 1回戦vs専修1:3で負け
- 5月15日 **関東学生馬術選手権,同女子選手権予選(あぶみあげ)** 笹川薫,篠崎夏実,佐々木直美,柳田
智子通過一決勝進出。松本美紀一前年度関東選手のためシード 決勝進出
- 5月20日~22日 **全国都道府県馬術大会(アパロン大会)** 中障害C(二段階)優勝 笹川薫(チャップ)
- 5月28日~29日 **関東学生馬術選手権及び女子選手権決勝** 第2位 松本美紀 第6位 篠崎夏実 以上2名
関東選手として全日本学生馬術女子選手権出場権獲得
- 6月4日~5日 **東京障害飛越,都民選手権大会** L級障害 第7位 川野孝徳(青凌)M級クラス
第2位 松本美紀(青雄)/セントジョージ馬場 優勝 松本美紀(ハリー)
- 6月12日 **東北学院大学定期戦** 団体 総減点-4vs0で本学の勝ち/個人 優勝 本田陽一郎
- 6月18日~19日 **関東馬術大会** M級クラス 金子亮一(青妃)松本美紀(青雄)減点0 M級Bク
ラス 金子亮一(青妃)減点0/セントジョージ 第6位 松本美紀(ハリー)
- 7月8日~10日 **全日本学生馬術女子選手権大会** 松本美紀(シード)一優勝,篠崎夏実,柳田智子
笹川薫
- 7月16日~17日 **キャロットステークス** 第二課目 婦人班 第3位 窪田美砂(青遠),ユース班 第2位
宮尾元子(青将),第3位 佐々木直美(青雄)
- 7月30日~31日 **コドラ号記念馬術大会** 第二課目 第7位 笹川薫(青将)/ジュニア団体 第6位 笹

川薫（青将）/ジュニア個人 第3位 松本美紀（ハリー）/セントジョージ 第2位 松本美紀（ハリー）

8月26日～28日 汎太平洋国際親善馬術大会（小淵沢） 3-DAY EVENT 第6位 込山博幸（日本代表）

9月10日～11日 関東学生馬術女子競技会 団体総合 2位，馬場馬術 団体2位（第二課目）/個人 第3位 松本美紀（青雄） 第5位 篠崎夏実（ハリー） 第7位 宮尾元子（青将）第13位 窪田美砂（青遠）障害 団体5位 減点0 佐々木直美（青雄）・減点0 松本美紀（青妃）減点3 窪田美砂（青遠）

9月16日～18日 東日本馬術大会 ハリー，青妃，青雄—ALL-JAPAN出場権獲得

9月25日 世田谷区民大会 小障害 減点0 篠崎夏実（青雄）—世田谷選手権出場権獲得，世田谷選手権 篠崎夏実（青雄）—優勝，ジムカーナ 第2位 恵佳子

10月8日～9日 スネーフェル号記念馬術大会 ハンタークラスC第三班 第5位 金子亮一（ベルワイド）選抜へ，ハンタークラスB—班 第4位 川野孝徳（青凌） 選抜へ，ハンタークラスC選抜 減点0 金子亮一（ベルワイド） ハンタークラスB選抜 優勝 川野孝徳（青凌）

10月22日～23日 全日本学生馬場馬術競技大会 学生賞典 第10位 松本美紀（ハリー）第15位 笹川薫（青将） 第22位 込山博幸（青遠）

10月26日～27日 金日本学生障害飛越競技会 団体第4位

10月29日～31日 全日本学生総合馬術競技会 （29日調教審査，30日耐久審査，31日余力審査）個人 第6位 松本美紀（青雄）/団体5位 三種日給合 第5位

11月4日～6日 オリンピック記念馬術大会 一般馬場馬術競技（ジュニア予選馬場） 婦人班 第2位 篠崎夏実（青将）第5位 窪田美砂（青遠）/学生班 第3位 金子亮一（青将）/初級馬場（総合馬場初級）学生班 第5位 松本美紀（スティング）/婦人班 第3位 宮尾元子（青将）第5位 佐々木直美（スティング）/新馬障害 第5位 本田陽一郎（シンシア）



FROM THE FINEST BREEDS COMING TO LIFE

カバロ東京 東京都世田谷区上野寛3-1-135 〒158

カバロ大阪 大阪府吹上区吹上1-1-1 TEL:06-7455-9841

カバロ神戸 神戸市東灘区灘6丁目1-17 〒651

カバロ福岡 福岡市東区東区1-1-1 TEL:092-809-9999

カバロ札幌 北海道札幌市東区東1丁目2番2-200号〒060

カバロ東京 東京都世田谷区上野寛3-1-135 TEL:03-3498-0638

思い出がいっぱい

卒業後の馬とのつきあい

長野 明（昭14卒）

私たちが青山学院の馬術部に入部したのは既に約半世紀も前のことであり、その頃の（馬術部）の思い出といっても遙か昔のこと。しかしながら思いかえしてみると大変懐かしいものです。

現在の青学大と違って、我々の頃は学校の規模が小さいため、学生の数も少なく、各運動部共通の悩みは部員不足。如何にして新入部員を獲得するかに苦心した時代でした。

また馬術部は伝統ある部でありましたが、学校当局からの部費の割当は僅少であり、費用の面でも苦心した思い出があります。他の部に比べて自費のかかる部であったために部員の数も少ない部でした。

入部するとまず馬装を整えるため長靴は稲毛星、乗馬服は目黒の森下テラーに注文。

これが出来ると格好だけは一人前の馬術部員が出来上がるわけでした。

練習はせいぜい週2回ほどで、専ら駒沢の練兵場（現在の駒沢競技場）近傍の村上という貸馬屋でした。新米の頃は初春と称した馬がなかなかの癖馬で意地悪く、後退するばかりで前進せず、新米部員は苦勞したものでした。しかしながら段々と上達してくると反撞

が柔らかく障害の飛越力もあり、当時の貸馬星の馬の中では一番の良馬でした。

私は部員といっても二足のわらじをはいていました。ボクシング部との掛け持ちで、どちらかというところボクシングの方に練習の重点があつたため、馬術部員生活は学生生活後半になつてから熱心になりました。当時の運動部は上級生は神様といつた時代でしたから、硬派のボクシング部で自由のきく身になつたのは3年生になつてからでした。それから堂々と掛持部員として大きな顔で学校で馬装して練習に出かけ、時折は駒沢から道玄坂、宮 益坂を通り学校まで威風堂々外乗して格好の良さを誇示したりしました。

当時の馬術部の部屋は誠にお粗末そのものでほこりくさく、また皮革油の臭いが充満する部屋でありました。当時は校内禁煙であつたため、チャペルのときの喫煙室として有効に利用したり、ダンスホールに行くための更衣室でもあつたのです。

当時は大学高専の馬術部で自馬を持つている学校はなく、専ら陸軍の後援で合宿、競技会が行われていた時代でした。関東学生とか全日本学生の競技会は市ヶ谷の旧陸軍士官学校河田町馬場で挙行され、競技に使用される馬匹は士官学校より選出された乗馬によつて行われたので、馬運に恵まれなければ入賞は至難なことでした。15年卒脇坂君が障害飛越で優勝したことが当時の馬術部で特筆される

べき一大快事だつたと思います。

我々が現役部員時代楽しい部生活が出来た陰に先輩OBの方々の温いご援助がありました。私達も長老と呼ばれる年齢となりましたが、学生諸君の部生活の一助となるよう微力ながら努めるのもOBの一員としての使命と考えております。

緑鞍会の一員として現役諸君の活躍を期待しております。

馬と私

福島保男（昭18卒）

卒業後すでに40年、馬術部にはすっかりご無沙汰しているが今般「いななき」再刊に一文をとのことで、いままら戦争のこともあつるまいとも考えたが、たまたま馬のいる部隊に入つたので、その体験を思い出すまに記してみることとした。

青山学院馬術部在籍3年半、昭和18年9月繰上げ卒業し、10月住友金属工業㈱に入社したが、11月には東京の三宿にあつた近衛野砲兵第二聯隊に入隊させられた。野砲兵とは口径75ミリ野砲を頭併列、頭立の馬で片側に騎手3名が騎乗けん引し、弾薬庫、輸送車用として馬が数多く使われていた。当時の陸軍では、まだ自動索引車は少なく馬の方が重要な戦力ではなかつたかと思う。馬を主力とした兵科は野砲兵のほか輜重兵（しちようへい

・輸送部隊)、騎兵であった。

馬術部当時は馬の確保に苦勞したが、ここでは乗馬することではなく馬の世話をする毎日であった。早朝から馬の手入れ、馬房の清掃、飼料やり、寝糞の乾燥等演習後及び夜間と、その繰り返して、自分のことはその合い間にやるというまさに馬と寝食を共にする生活であった。この東京での軍隊生活も一ヶ月半位で12月には同期生と共に北支(中国)にあった野砲兵第三十二聯隊に転属した。生活は三宿と同様であったが、厳冬気温零下で馬蹄を洗う水の張った水の冷たさに手にしもやけが絶えなかった。馬は兵器同様に軍隊では非常に大切にされていた。

翌19年3月この部隊がニューギニア方面に出動することになり、私共は幹部候補生として再び騎砲兵第四聯隊に転属された。春のよく晴れた日、野砲と随伴車を引いた千頭近い軍馬、完全武装の五千の将兵の隊列が出発して行つた。この部隊は現役の精銳部隊で青島から他部隊と輸送船団を組み出航したが、後日聞いたところでは航海中魚雷攻撃をうけ、また上陸後戦斗により全滅したとのである。

例えば第二次世界大戦で多くの人命を失つた。そしてまた、表面には出ないが数万頭あるいはそれを超す多くの馬も戦斗に海中に、あるいは餓死してその生命を断たれて行つたのである。私が日夜接した教頭もその中に入

つていたのだつた。新たに配属された騎砲兵部隊についての知識は全くなかつたが、簡単にいえば騎兵が野砲を持ち、全員騎乗する兵科であつた。野砲兵部隊は砲手、弾薬手、通信手など徒歩兵の方が多いが騎砲兵では徒歩者は全くない。従つて私と馬とのつきあいは益々深くなつたということでもあつた。

同年4月末他の幹部候補生と共に帰国。久留米予備士官学校に入校した。この学校にも各兵科があつたが、勿論私は砲兵大隊の野砲兵中隊所属で馬とのつきあいは相変わらずであつた。教育は学習教育とともに武術、砲術、馬術等の実習が一週ずつの日程で組まれていた。馬に接するのは入隊後始めてという同期生が殆んどであるため、馬術教育ではいささか良い恰好ができるかと内心期していた。ところがその直前に大失敗をしてしまつた。夕刻の馬手入れで馬蹄を洗つていたところ輓馬の大きな蹄で左足の親指を見事に踏みつけられた。その痛かつたこと、たちまちはれ上り、その晩は疾病でねむれず化曝して爪がはがれ一週間の練兵休となつてしまつた。馬術教育は遂に横目で眺める仕儀となつて思惑は大はずれだつた。やはり油断大敵、慣れは危険のもと、の通りであつた。

しかしこの馬術教育は同期生にとつて大変つらい体験だつた様だ。何しろ軍馬の胴まわりは大きく反撞も高く、股や尻にすり傷を作つて隊舎に帰つてもガニ股でもたもた歩く者

が多かつた。馬術教育では駄目だつたが後日演習の際に二頭立一人騎乗で野砲を高い処にある陣地に引き上げ教官からはめられたこともあつた。

馬は好きで馬と密着した毎日もそれ程苦にはならなかつたが、他兵科との合同演習で宿泊の場合、歩兵は自分のことだけすれば休息出来るのが、砲兵は先ず野砲、馬の手入れ、世話をした後漸く休息という訳でうんざりすることもあつた。

さて久留米も5カ月で南方総軍幹部教育隊(ジャワ)に転居することになり9月同期と共に日本をはなれ潜水艦攻撃に脅かされながらも台湾、マニラ、シンガポールを経て2カ月近くかかつて漸くジャワに到着した。この航海中同じ船団で数隻魚雷攻撃で沈没、私達の目前で爆沈し全員戦死した船もあつた。移動の間は馬との生活は解放されたがジャワでは南方の炎天下再び馬とのつきあいが始まつた。教育隊の馬も殆んどはるばる日本から送られて来たとのこと、馬達もまさか赤道をこえて南十字星を眺めようとは夢にも思わなかつたであらうに。

翌20年4月教育終了し見習士官に任官し、今度はビルマ方面軍野砲兵第五十四聯隊に配属されることになつた。当時ビルマは非常な苦戦を強いられているとのことで地獄に行く様な感をいだきながらも同僚と共にシンガポール、マレー、タイと破かいされた鉄橋、鉄

道を徒歩、船、鉄道とのりつぎ、かの有名な戦場にかける橋の秦細鉄道を通り漸く部隊に合流したのは8月であった。合流した部隊は野砲兵聯隊といつても野砲一門、馬一頭もなく、小銃を僅かにもつたのみの5百名の集団であった。生存者は僅か一割のみで千五百の貴重な人命と数多くの馬が戦斗、あるいは撤退中に戦病死、餓死で失なわれたのだ。

終戦の連絡があつたのは一月おくれの9月で、私は幸いなことに野砲で戦傷することもなく馬の死にも合わず、以後2年近くの捕虜生活を経験して3年に復員した。

従つて卒業後の馬とのつきあいはジャワまでの1年半足らずであつたが、毎日ともなると非常に長かつた思いで、この間多くの馬がつぶらな目で黙々と私につきあつてくれた。

馬に憧れて

阿部雄三（昭18卒）

私は子供の頃から馬に乗りたと思つてた。私の住んでいた青山近辺を馬に乗つた陸軍の兵隊や騎馬巡査が闊歩する姿は素晴らしかつた。市電（路面電車）に乗つて窓から見ても目の高さに見えるのは彼等の脚か腰の部分であり、高い所から私達を横目で見下ろしながらパカパカと追越してゆく彼等は真に気分よさそつであつた。しかし何といつても、

天皇陛下を護衛して馬車の前後を囲み、旗を立てて蹄の音高く走つてゆく近衛騎兵の勇姿はまさに威風堂々。この上もなく恰好良いものに思われ憧れの的であつた。この気持は大になつても変らなかつた。

高商部へ入学すると早速運動部の先輩達が、休み時間毎に教室へ押しかけてきて勧誘を始めた。私が入学した年の2年前に高商部を卒業した長兄が陸上競技部の主将をしていた関係で、陸上競技部の中村主将が度々私を説得に来られた。私は足だけは速く、小学校の運動会では1年から6年まで徒競争は全部1等であつた。しかし痩せていて体重も軽く、投擲などは苦手で陸上には向いていないと思つた。馬術部に入ろうと考えているといつて言葉を濁していた。ある時その押問答をしている傍に青木昇さん（当時は井口昇さん）が矢張り部員勧誘に来ておられ、私達の会話を聞いた途端「おつ、この男は頂きました。おい、こつち、こつち」と私をその場から拉致して即座に入部の承諾をさせて了つたのである。

その年の新入部員は7、8名であつたと思う。初練習の日私達は駒沢練兵場（現在世田谷区池尻で防衛庁技術研究所などがある）わきの村上乘馬クラブに連れてゆかれた。綱島の厩舎よりはるかに貧弱なもので馬も頭ぐらいいしかなかった。良い馬は軍馬となつて中国や南方へ送られており、乗馬クラブは馬

糧入手も困難で瘦馬が多かつた。数頭の馬を引出し手綱の持ち方や乗馬、下馬の動作を教わつた。その時1年先輩の馬場さんが我々の廻りでこれ見よがしに颯爽と駈足をしてデモソストレーションをされた。この日を1年間待つておられたのである。馬に触つたのが初めてという我々は作業ズボンに巻脚絆というなんとも冴えない恰好であつたが、スマートな馬装をピタリと着こなした馬場さんは如何にもヴェテラン騎手に見え、1年であんなに上手くなれるのかと我々は目を輝かせ期待に胸を躍らせたのであつた。尚この日主将松井英伸さんから餅菓子が振舞われたのも嬉しかつた。新入生歓迎のご好意である。この原稿を書いている途中遠藤幹事長より今年1月松井さんが亡くなられたとの報を聞き、驚きに堪えず謹んで哀悼の意を表したい。

練習を始めて3カ月ぐらいの内に新入生の殆どは落馬を経験したが私は仲々落ちなかつた。落馬していない者は練習の度に上級生から狙い打ちをされるようになった。青木さんや羽坂さんは「おい阿部、まだ落ちてないな、きようは落してやるぞ。夏休みまでには皆落ちるのだ」と竹竿の先にロープや荒縄を結びつけて鞭を作り、輪乗りの内と外からびゅんびゅん馬を追い廻した。まるでサーカスのライオン使いだ。鞭が当たると馬は急に駈出した。輪の外へ逃げ出したり、時には前足を上げて棒立ちになつたりした。私はのけ反つたり

ちるのだ」と竹竿の先にロープや荒縄を結びつけて鞭を作り、輪乗りの内と外からびゅんびゅん馬を追い廻した。まるでサーカスのライオン使いだ。鞭が当たると馬は急に駈出した。輪の外へ逃げ出したり、時には前足を上げて棒立ちになったりした。私はのけ反ったり首の上に乗ったりして必死で頑張ったが遂に落馬した。口惜しかったが不思議と先輩を恨む気は起らず、彼等の顔を立てたということ。でしごきから解放されると思ってほっとした。その後の練習や合宿のことなどは以前にも書いていたり話したりしているので省略したい。

卒業の年に海軍が飛行科予備学生を大量募集した。音に聞く陸軍の陰湿なしごきに怖れを感じていた私には、海軍士官への道は天の救いのように思われ躊躇なく受験した。その後間もなく兵隊検査があった。徴兵官は私に「陸軍と海軍と両方合格したらどちらへ行くか」と質問した。私は即座に「近衛騎兵にして下さるなら陸軍に行きます」と答えたら「それはちょっと無理だな」といわれたので「それなら海軍に行きます」と答えた。近衛騎兵は各府県から最も優れた者を「名づつぐらいしか採用しないと」言われており、無理を承知で答えたまでのことである。こうして私は馬の代りに飛行機を操縦して太平洋や日本海の上を飛んで恵まれた2年間を過ごした。近衛騎兵の凜々しい姿はもはや永久に見ることが出来ないが、死ぬまで私の脳裏から離れる

ことはない。

最後に現役の諸君に一言申し上げたい。最近の馬術部の活躍は目覚ましいものがあり、我々の現役時代に見られなかった夢を見ているように真に喜ばしい。どうか今後も大いに練習を積んで立派な成績を上げてほしい。そして勝った時は大いに士気を高揚すると同時に、今日の馬術部の隆盛は学生諸君の弛まぬ努力の結果であることは勿論であるが、諸先輩の温かい援助と激励の賜でもあることを常に忘れずにいて貰いたい。そして諸君もまた、よき先輩となり後輩への援助を惜しまないでほしいと思う。

青木先輩と遠野

長岡由美子（昭37卒）

私達の同期には、堤さん、飯田さん、他にも青木先輩への思い出のつきぬ人が多いが、あまり深いかわりに、とてもことばに書き表すことが出来ないというので私に廻つて来た。実のところ、私も学生時代の懐かしい思い出がいっぱいあるというのに、さて何を書いて良いのか、とまどう。やはり遠野での思い出が今となっては一番心に残る。数年前青木先輩と堤さんの奥さんのマージさんと子供達、ハワイのジーンさん、トンちゃんこと牧野田（現岡田）さんとご主人に子供達、張聞

くんの総勢15人で過ごした数日間の曲り家での生活が懐かしい。茅ぶき屋根のてっぺんに咲くゆりの花はやさしく私達を迎えてくれた。曲り家の前庭（？）には、たわわに実を付けたえだ豆にトウモロコシ、トマトになす、きゅうりと何でもある。都会生活の私達には味わうことのできない美味しさ。えだ豆のその甘いことには驚ろかされた。「野菜の鮮度って魚以上だということ分かったでしょ、ドリちゃん」と青木さんの声が聞こえてくる。

「ほんと!!」、東京育ちの私達はあの甘ったるいハニーがとうもろこしと思っていたのだ。トマトだって、木で熟したものの甘みのあるまるやかな美味しさは、ことばで言い表せない。次々にやってくる学生達が十分に食べられるよう、夏中たやさぬよう順々に植えられている野菜は、青木さんの思いやりが込められた格別の美味しさであった。いろりのかぎづるしに掛ったまっ黒に煤けた大きな鉄なべいっぱいのとん汁、竹ぐしに差して順良く焼いた「いわな」に「やまめ」を舌つつみながら、私達はこれからの夢を、また世界を廻つて見たこと聞いたことを語ってくれる先輩の話に、すっかり酔いしれたのだ。太くずを固めて出来た筒状の練炭にも似た新しい燃料を都会に供給する話。それはオイルショック後の世界的エネルギー問題の起きていた時であり、世界を駆け巡つてオイル畑で生きて来た人の手工であり、土地の人の将来の大きな生

活をささえる源ともなり得る話として私達も思わず興奮して聞きいった。その太くずの山に大きなかぶと虫がいつぱいいて、子供達は大喜びだった。曲り家から車で十分ほどの高原は、ヨーロッパの某有名な馬産地と似た条件で良い牧草がある。近い将来必ずここから日本を代表する名馬を育てようと青木先輩は青年のように目を輝かせ、話はいろりを囲んでいつまでも続いた。

「思い出というのはねずみ火花のよつなもので、いったん火をつけると不意に足許で小さく火を吹きあげ、思いもかけないところに飛んでいつて爆ぜ、人をびつくりさせる。」と亡くなった向田邦子は書いている。青木先輩のそれはねずみ火花より大きな力をもって人々の中で爆ぜつつけよう。しかし時とともにそれも薄れよう。が何かのはずみにふつと記憶の過去帳をめくって、あああの時あんなこともあったと亡くなった人を思い出す。遠野に伝たわる民話の人々に誇りつつけられてきたように、先輩の思い出は馬術部の長い歴史の中に生きつづけ、語りつつけられていくことだろう。

私事、遠野での忘れぬ日を一緒に過ぎたジンさんに、この夏ハワイで子供達も交じて会った。青木先輩の思い出話はここでも爆ぜたのである。

柳田国男の「遠野物語」を読んだ。曲り家で聞いた老婆の語り口のそれ（レコード）と

はずい分違うものように思えた。その点井上ひさしの「新釈遠野物語」は、前者の「聞き書き」に対して語り手と聞き手に話を戻した作品といおうか、「語りもの」に対する作者の心意気が強く出ており、楽しかった。

「柳田国男の遠野物語が名著であることは疑いようがない」といつつも「語りものであった土地の昔話が活字として、定着した時に、大きなものが失なわれてしまうことにも注意をしなければならぬ」と言った井上ひさしは、この本の中で十分に語り調子を復活させている。老人のたいへんたくみな話に、ひつかけられ、のせられ、腹立たしくなる程のうまさである。昔は動物と人間のかかわりが深かった。曲り家では南側の一軒良いところが馬小屋になっている。そんな中でこそ、ぞつとするような馬と人との、獣交話も生れて来たのだろう。ひつしと迫ってくる「冷し馬」の話は情深く恐ろしい。「遠野が自分を呼んでいると思うほど、遠野にのめり込んでいった時期があった」と井上ひさしは語っているが、青木さんがあんなに遠野にとりつかれたのは何だったのだろう。遠野というところは不思議な魅力のあるところにちがいない。もう一度遠野を訪ねて見たいと思う。

愛しき馬よ！

大塚まり子（昭44卒）

「あー！馬に乗りたい」真夏の空に、むくむくとふくれ上がる入道雲のように、今私の中にこの願望がどんどん大きくなってきて今にも破裂しそうな状態です。

テレビ、ラジオ、新聞、雑誌……ありとあらゆる情報機関で、私のこの切ない気持をまるで知ってでもいるかのように、馬術に関する記事が多く、その様な記事が目につくたびに、身体中の血が騒ぐのです。

さわやかな初夏の空の下、馬事公苑の角場で試合に出場している自分を想像すると……あーもうたまらない……。

不思議とこういう時には、落馬をしたみじめな姿や、綱島の馬場で、ボ口と格闘している姿は、浮んでこないものです。

私が乗っている馬は、ピカピカのサラブレッドで、それはそれははればれするような、見事な馬で、決して御殿場の遠乗りや、どこかの湖のほとりで乗ったような、股がれば足が「八の字」になるような馬でなく、馬格といい、品格といいどこから見ても一級品の馬なのです。私の頭の中には、こういうイメージしか、どうしても浮かんでこないのです。

「あー！馬に乗りたい！」

昔から、思いついたが吉日と言うではありませんか。よし！私は馬に乗る。サラブレッドなどと、贅沢なことはいりません。駄馬でも農耕馬でも、こうなったら何んでもいい、馬に乗れば、気分は最高！

昭和四十九年 騎乗日誌より

大山祥子(昭56卒)

月 日 号令。池田さん。馬・スズボクサー。とうとう入部してしまつた。担当馬匹は、スズボクサーと青駿。スズボクサーは手入れて暴れる。特におなかにはさわれない。矢島が手伝つてくれようとして蹴られた。ひき馬も足を踏もうとするし、怖いのでいや。それに部班中に支柱でさく癖をし始めて動かなくなつてしまつた。きらいだ。

月 日 号令・栗原さん(大学生)馬・青駿。どつしても軽速足ができない。ちつとも楽じゃなしし疲れる。手前なんてとても合わせられない。部班の最後に初めて「駆足すすめ」の号令がかつた。お馬は号令を聞いたとたんに私が何もしないのにいきなり走り出し、走つたとたん落馬した。駆足があんなに怖いものならもう二度とやりたくない。

×月×日 号令・豊田さん(コーチ)馬・スズハヤ。蹬上げでコーナーで外側に落ちた。今、私の左手にはギブス。あの上下だけでなく前後左右めちやくちヤの反撞にはとても耐えられませんでした。合宿中だというのに最悪。

月 日 号令者・板倉さん。馬・青貴。「肩内に」の号令がわからなくて、とてもおこられた。

月 日 号令者・鈴木さん。馬・青蓮。初めて、大学の主将の鈴木さんに号令をかけていただいた。とても感激、青蓮もとてもよい子でした。

×月×日 号令者・中村さん。馬・チビ太。もうすぐ淵野辺高校で障害の試合があるので今日も障害練習。スズハヤと違つてゆつくりなのはいいんだけど飛びあがりきれなくてドラム缶の上に落ちてしまつた。途中で青貴に乗り替わつた。とにかくひつかからない馬なら何でもいい。初めての試合なので、今から胸がドキドキする。中村さんお願いだから後ろから大声で馬を追うのはよして下さい。石を投げるのもやめてください。今日も落馬した。

高等部馬術部に入った頃の乗馬日記の一節です。ページの中に、涙と汗と馬の匂い、がしみこんでいるようで、一生たいせつにしたいノートです。

歯科

羽坂デンタル・クリニック

医院長 医学博士 羽坂 勇 司 (昭16年12月卒)

● 235 横浜市磯子区洋光台3-2-5

☎ 045-831-3221

Part III

あんでぱんだん





埼玉県秩父市本町4-23

TEL 0494-22-0169

世界商事株式会社

代表取締役 大島孝子タカ タネ(昭32年卒)



—よりよい品をより安く—

当社は創業以来67年間、一貫して食料品小売業の担い手として、お客様の食生活の改善に努めてきました。現代の世界経済はエネルギーと並んで食糧問題も大きな課題となっています。私ども食料品を扱う企業の使命として、食糧の確保はもとより合理化・省力化による流通コストの切り下げでよい品をより安くお客様に提供できるよう努力いたします。

〈高栄店〉

北見市高栄東町142-111

☎23-6177(代)

〈北光店〉

北見市北光175-1

☎25-8651

スーパーチェーン

イチワ

本 部 北見市加町3-3 ☎5121

代表取締役社長 渡辺 充(昭33年卒)

取締役常務 那須 堯雄(昭42年卒)

取締役商品部長 渡辺 友則(昭48年卒)

幹事長挨拶

幹事長・遠藤恭輝（昭35卒）

昨年、市原先輩より幹事長を引き継ぎました。長年東京を離れておりましたので、緑鞍会の活動に何もお役に立つことができませんでしたが、この機会にお引受け致しました。よろしくお願い申し上げます。

組織や技術が優先する社会にあつて、半年間の、ほんの短い青春の「コマ」を馬術部で苦勞をわかちあつた仲間が、何年たつても親しく交友できる緑鞍会の活動は、何か心のよりどころであると感じております。

久しぶりに綱島を訪ね、また試合を見に行き、馬匹の充実と技術の向上には、隔世の感があります。我々の時代の貸与馬中心の競技から自馬中心の競技に変わっている現状では当然のことかも知れませんが、今後の学生馬術のあり方に大きな問題があると思えます。現状のわが馬術部は、OBの皆様の絶大なご支援と、張間監督、松本先生を中心としたコーチ陣、現役の頑張りにより、もう一歩で上位を狙える水準にあり、先日の全日本学生馬術大会でも、団体総合で「位」となっております。

しかし、現状を維持し、より強くなること が並大抵でないことは事実です。馬術部に入部する新人は減少しており、優秀な馬匹を確保することは、経済的にも制約があります。

現在、緑鞍会の会員は約300人の大世帯になつており、馬術部創立60周年を機会により一層の親睦と結束をはかりたいと存じます。今後は現役に近い若手のOBが中心となり、また卒業後も馬術界で活躍されている方々のご意見をお伺いして、会を運営して行く必要があると考えます。

ときには、試合をご観戦頂き、綱島にもお出かけください。またできる限り線鞍会の会合にもご出席ください。馬術部の現状をご理解頂き、物心両面のご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

最後に会員各位のご活躍と、ご健康をお祈り申し上げます。

馬術部に思うこと・望むこと

監督・張間陸途（昭35卒）

青木監督のあとを引き継いで新監督になつて、3年が過ぎました。この間、先輩諸氏や諸先生方など、多くの方のご協力をいただき感謝申し上げます。監督の立場からOBのみならず、馬術部の現状をご報告いたしたいと存じます。

まず、馬匹の方ですが、みなさまのご協力により飛躍的に向上し、馬場馬頭、障害馬頭、練習馬2頭（内1頭は障害競技にも十分使える）新馬2頭の合計13頭を繋留しています。

しかし、肝心な部員は男子6名、女子13名、計19名という淋しさです。現代学生気質とでもいうのでしょうか、体育会に入部すると拘束時間が長く、下積生活があるということから嫌われ、どこの部も新入生不足で悩んでいます。まして、いきものを扱う馬術部ときては、なお一層敬遠される始末です。おまけに飼育料稼ぎのアルバイトで、休日返上のため、せつかく入部しても続かないという慢性部員不足です。なにか良いお知恵を拝借できれば幸いです。

日常の練習では、伝統の早朝練習で毎朝松本先生に、ご指導、ご鞭撻いただいております。アバロンご出勤前の「時間余り、みっちり調教と訓練をお願いしています。

夏の遠野合宿は、遠方であるために費用がかかりすぎるから昨年をもつて中断しております。大自然の中でのすばらしい合宿が続けられなくなったことは、非常に残念です。合宿実施中は、地元の方々には大変お世話になりました。故江藤前市長は、合宿所までの農道を舗装してくださいました。また、市役所の蒔村さん、馬産家の白岩さんたちは、曲り家のイロリで、イワナを串焼きにしてご馳走してくださいました。こうした方々のご好意につけても、またいつの日か、遠野合宿が復活することを願ってやみません。

最後に、今後とも馬術部のために、OBのみなさまの購い援助をお願いする次第です。

現場から

アバロン乗馬学校教官

松本昭四郎

機関誌、いななき」の発刊にあたり小生にも何か一筆との御依頼がありましたので、まだ二年数ヶ月の間ですが、感じたこと、思いついたことを断片的に書かせて頂きます。

まず最初に、部員諸君の練習を見て感じたことは日常の練習が無計画。馬のトレーニング方法もでたらめ。基本に忠実でなく見様見真似で勝手にやっているといった感じであります。これでは地方の乗馬クラブで気儘にポコポコ馬に乗っているのと大差はなく、噂通り競技会で、良い成績を上げることが出来ないのは当然だと思いました。

そこで一昨年夏の合宿から帰って以来、小生式の方法で馬のトレーニングから始めようと思ひ、実行に移しました。当時の状況では、人馬を両立させてトレーニングするのは、春からの競技に間にあいそうもないと思ひ、差し当り、馬だけの訓練を行いました。ある程度の障害ならば、騎手はハンドルだけ操作していれば、飛べるようにするしかない、と思つたからです。週三回宛馬のトレーニングを開始しました。よく『馬術は馬七分の騎手三分』といいますが、特に障害においては馬の比重は特に重大です。まず馬を作つておいてその後で騎手の技術を仕込めば障害飛越のコツが判るだろうと考えたのです。昨今にな

つてポツポツその成果が現れ、数頭の馬が中障害ウクラス位迄なら無過失で帰れるようになりました。

今後は、騎手の養成を目標にしてやってくつもりですので、部員諸君も左様心得て頂きたいと思ひます。それから殊に現役の部員諸君に覚えておいてもらいたいこととして、馬の調教の維持という事が、いかに難しく大切なものかということですが、我々プロでさえ、新馬を調教することより調教された馬を最良の状態に維持することの方が困難であるのを判つて頂きたいのです。それなのに大部分の騎手が、一度出来た馬は絶対にこわれないという様な感覚で乗っているのをよく見かけますが、あれは大きな間違いです。これは障害馬に限らず馬場馬でも全く同じです。このことをよく念頭において日常の練習を行うように心懸けて下さい。

それから基本を大切にすることにも重要な点です。基本が出来ないで次々と上の段階いつてしまつので競技には出て失権はするは、馬場馬術では点もつかずの結果になつてしまつのです。これは馬についても人についてもいえることで、このことが、案外青山学院馬術部だけでなく各大学馬術部、いや、日本中の馬術界で軽んじられている様に見受けられます。

小生は数年前、アメリカカヴァージニア州の国際乗馬学校のインストラクターのクラスに

一年間留学しました。ここでの前半の間は徹底的に基礎馬術をたたき込まれたものでした。この学校のインストラクター課程の生徒の腕前は最低でも日本の競技選手の上位級の騎手達でしたが、その連中が毎日巻乗やら、直行進障害も1米位のものばかり、歩度やフォーム、沈静等をやかましく注意されながらやらされて来ました。小生も巻乗り一つやるのが、こんなに難しいものかと思ひ知らされたものでした。

馬術の先進国でさえ、これほど基本を重視するので、いかに大事なことであるからよく考えてみてください。特に学生諸君は、年間で終つてしまつのですから、1日でも早く基本を身につけることが必要です。そのためには、毎日の練習が大切になって来ます。そして自ら研究努力し、技術向上して、近い将来には学生馬術界に青山学院大学馬術部の名を轟かせるよう頑張つて欲しいと思ひます。そのためには小生もおよばずながらお手伝い致します。



追憶―徒然なるままに

前主将・川野 孝徳（史4）

徒然なるままに、日ぐらし、硯に向かひて心に映り行くよしなしごとを、そこはかとなくかきつれば……42ヶ月間の綱島生活を思うと、あまりにも多くのことがありすぎて、怪しうこと物狂ほしくなってしまうそうだ。

忘れもしない昭和55年5月11日の水曜日、抜けるような青空の下で一面に広げられた寝わらと、Yさんの帽子が印象深い初めての綱島馬場でした。奇しくもその日、Tさんの³⁰年連続落馬↓脳震盪事件が起こり、波乱含みのスタートとなったのであります。あれから今日まで様々な出来事のなかで、絶対に書き落とせないことは、青木真次前監督のことです。

3年前の遠野合宿、当時1年生の私にとつて、青木監督は、³¹恐い、以外のなにものでもありませんでした。この合宿中、私は青木号（青木監督の愛馬の中の一頭。後に、もう一頭の鉄木真号も任されたのですが）を与えられ、

「自分の子供と違ってかわいがれ」³²とよく怒鳴られました。ところが、その恐いはずの監督が打ち合げのデイスコ大会に、年齢を感じさせない軽やかなステップで飛び込んでこられたときには、驚きと同時にそれま

でのイメージが一掃させられ、大いに盛り上がったものでした。

今年、青山学院大学馬術部は、全日本学生馬術大会³³種目全てに団体出場という大躍進を果たしましたが、これも青木前監督が、当時低迷していた部を再建するために始められた長期計画が実ったものであるといえます。残念ながら青木監督は、志半ばで急逝されましたが、その宿題は諸OBの方々、水野先生、松本先生と受け継がれ、成就したのであります。

私は卒業いたしますが、現役の諸君には厚木移転にもめげず、なお一層の飛躍を遂げられることを願っております。

わが青山学院大学馬術部は永遠に不滅です。

思うままに筆まかせ

新主将・高久 秀康（経3）

この度、青山学院大学馬術部主将に選出された、青山学院院高等部出身、高久秀康です。これからは、諸先輩方に御指導いただき、より一層部の発展のために尽くしたいと思えます。

自分は、高等部から馬術部でやってきましたが、高等部馬術部へ入部したのは、1年の11月と遅いものでした。その時点では、1年生も夏合宿を終え、部の仕事にも慣れてきて

おり、あとから遅れてノコノコ入ってきた自分は、また最初から教育しなくてはならない上級生にとつて大変やっかいなヤツだったと思います。自分も早く部の仕事に慣れたかったので、それからというもの、同じ学年の部員のあとをつけ回しては、

「あれは何だ、これはどうするんだ」と聞いていたので、いかにも面倒くさ奴といった顔をされたのも、2度や3度ではなかったように記憶しています。

また、何を隠そう馬術部へ入部する以前は、自他共に認める神経質だったので、まず馬場に来て、馬屋の臭いことには閉口しました。しばらくの間、皆がポロ取りをして、ポロが手についたなどと騒いでいるのを見て、

「こいつら、おかしいんじゃないだろうか」と思った程です。もうひとつ、ふとんのことにはまいりました。ふとんの汚ないことといったら……（今はなんとも思いませんが）最初に寝るときには、部屋を掃除して、更になんをばたいてから床についたのは、現在でも語り草になっているうちのひとつです。

高等部馬術部入部当初はこのようだった自分もいまでは、ポロのこびりついた靴を平気で履いて、綱島の町を歩き回っているし、人の上に立つ役につくようになりました。いま変わってゆく自分を見失なわないよう心がけながら、気持ちは、いつになく高揚してきます。

馬術部の遺暦を迎えて

羽坂 勇司（昭16卒）

馬術部創立60周年と伺い、緑鞍会の一員として、まことにご同慶の至りです。60年前という大正の末期で、以来色々な時代の变革の中で、馬術部が存続できたことは現院長大木先生、歴代体育連合会々先生、歴代部長先生、調教、飼育等ご指導いただいた諸先生のお陰と心から感謝申し上げますと共に、井上会長はじめ幹部の方々や歴代監督、OB、OG、学生が努力された結果今日に至ったわけで、誠に喜ばしく思います。

馬術は他のスポーツと違って、「人間」と、「馬」という動物との協同作業が必要で、人は馬の性格を感じし、愛情を持ち、ときに厳しく、ときに優しく、自己の技術向上と相まって、人馬一体に近づかなければなりません。手許にある「遊佐馬術」の中で遊佐先生は、馬術家の信条として、既にご存知のように数寄（何事も好きで求めなければ進まないこと）、執心（執着心がなければ駄目なこと）、選師（師をよく選ぶことが必要なこと）、実践（う呑みにしないで、知識のもとで実行すること）、練馬（精進の志で練習を積み重ねること）、自得発明（反省の必要なこと）を掲げられています。これらの信条と共に、愛情を持つことを心掛ければ、人間形成に大いに役立つことと思えます。現在世の中では幼稚園

から塾通いをし、偏差値に振りまわされ、受験産業が大繁盛です。人間性とか、人間愛とかは忘却の彼方にあることも多いようです。

これからの複雑な社会で生活していくには知識、技術も勿論必要ですが、人間性が大変重要な役割を果たすと思われます。私達の頃（昭和13、16年）の馬術部は既に「いななき」に書かれているように自馬は持てませんでした。しかし練習、合宿、試合、遠征などに際しての先輩、同輩、後輩との人間関係、更に馬という動物との対馬関係などの諸体験は、社会生活を過ごす上で私にとって大変役立つています。

現役の学生諸君も馬術部生活をとおして、心身共に人馬一体への努力、馬に対する愛情を持つことによつて、充実した学生生活を過ごしてもらいたいし、私達OB、OGもできるだけ応援し、人間で云えば還歴に当る60周年に当りこれを一つの節として、馬術部が益々発展されることを期待します。

最後に物心両面で馬術部につくされた故青木真次先輩及び既に他界された多くの諸先輩の霊が安らかなようお祈りいたします。

83 初乗り会報告

石田謙三（昭39卒）

北風の中休みのような1日。今年の初乗り会は、好天と暖たかさに恵まれました。

19年ぶりに訪ずれた網島の街は、駅前か

らすつかりにぎやかになり、馬場にいたる道を探すのに苦労しました。

「お父さんは、ダメなんだから……」と子供に文句を言われ乍ら、やっとたどりついた馬場では、青木理事長以下、OB、現役がすでに杯を交されていました。テーブルにはおにぎりやお菓子、飲物がきれいに並んでいて、食欲をさそっています。でも、この日は馬にとつても、ご馳走の日。先輩持参のニンジンがたっぷりあるのです。子供たちは、おっかなびつくり、馬にニソジソをやるのですが、これが面白くてたまらないようでした。

現在、馬匹は13頭、部員は19名ということ

で現役の苦労も大変なようです。
現役、OB対抗の巻乗り競走や、現役のデモ騎馬と楽しいプロگرامが進んで、私も子供達の手前、思い切つて障害に出場しました。19年ぶりの騎乗でしたが、どうやらゴール、面目を保ちました。

この対抗戦はOBの敗北に終わりましたが、市原先輩の馬上1回転半宙返り、堤先輩の鞍上首すがりゴール、などのウルトラCが敗因でした。

競技の後は、子供達を馬に乗せて「ハイ、ポーズ！」と終日楽しい初乗会でした。

私の小3と小1の子供達は、（いずれも女の子）ゼツタイにまた来る、と張切っていました。OB・Gの多くが、45年卒以前の人で、若い人が少ないのが気になりました。

日興証券

新丸ビル支店

〒100 千代田区丸の内1の5の1
(新丸ビル1階)

☎ 03 (212) 6611 (代)

遠藤恭輝 (昭35年卒)



祝 青山学院大学体育会馬術部60周年!!

昭和45年卒業 ね わ ら 会

(勤務先)

芦川城次	栄光商事 働	463-6191
川島透	丸美商事 働	07495-2-0300
安田義生	教心商事 働	384-3366
環誠	日清運輸倉庫 働	214-6451
里中郁男	働サトナカ建築	918-0336

会費納入のお願い

下記の通り口座がございますので本年度(58年4月-59年3月分)の会費12,000円をご納入下さいますようお願い申し上げます。

銀行振込

郵便振替
口座番号東京9 - 139821
口座名青山学院大学馬術部

納入口座名 青山学院馬術部 緑鞍会 会長 井上恒春
三和銀行 本所支店 普 353 - 17817
住友銀行 日本橋支店 普 411958
第一勧業銀行 本所支店 普 100-227-900
三井銀行 日本橋通町支店 普 113-405753
三菱銀行 本所支店 普 080 - 4165720
富士銀行 本所支店 普 172 - 707758
協和銀行 新橋支店 普 118 - 708818

編集後記

部創立60周年記念・青木前監督追悼特集号「いななき」を、ようやくみなさまにお届けすることができました。

青木前監督が亡くなられてすでに2年余、ここまで発行が遅れたことを、まず、おわび致します。最大のネックは編集を担当した私や小野さんが、仕事の面で多忙だったということです。現役の原稿がなかなかまとまらなかったことも一因でした。

13頭の馬を抱え、綱島という不便なグラウンドに通い、試合やアルバイトに追われる現役たちは、ほんとうにかわいそうなくらい、毎日多忙です。その中で、よくここまでやってくれたと、彼らの努力に感謝しています。これを機会に、次号はもっと現役を中心としたすばらしい「いななき」が発行されるよう祈ります。

〈石田謙三・昭39卒〉
「いななき」発行に際して、多くのかたのご協力をいただき、ありがとうございました。原稿をお寄せくださったかた、広告取りに飛び回ったかた、資金調達に尽力くださったかたなど、みなさまの努力の結果として、ようやく一冊の本にまとまりました。

次号は、もっともつとイキイキとしたものに、乳役の活動状況やOBの近況報告など、馬術部・緑鞍会の息吹きの感じられるものに……と願っています。

ん残っていますので、次号に期待します。

〈小野英子・昭35短卒〉
小学校、中学校時代、作文で三重丸なんでもらったことのがなかつた私が、こんな、編集とか文章を書くとかの仕事をおおせつかつてしまつて……、いまだからいえるのですが、どうしようかなあ、と悩みました。

けれど、いろんなかたと知り合う機会もあつたし、勉強にもなつたし、ふり返つてみてとても充実していたと思います。

全日本学生馬術連盟の仕事もあつたので、原稿をまとめるのにモタモタして、皆さんにご迷惑をかけたのですが、今度、もしこのような仕事を与えられる機会があつたら、もつと一所懸命やつて悔いの残らないものにしたいと思います。

〈仏文3・堀川万由美〉

いななき 第12号
馬術部創立60周年記念号
青木前監督追悼特集
発行人
〒150 東京都渋谷区渋谷4-4-25
青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会
編集責任者 遠藤恭輝
印刷所 (株)ナショナル・プレス
昭和58年11月30日発行

虎に魂めり。
Lynx
ニッポンゴルフの真髄



まっすぐ20ヤードの儲け。



SEVILLE

セヴィール

METAL WOOD

- スクエアフェイス・クローズドフェイスの2種(反発力大・空域・ソールの形状)
- コーナード設計にて空気抵抗少(飛距離)
- 中空構造による1/3軽量化(トス・振り回し)

IRON

- トゥアー・ヒール&フール・バランス(方向性)
- トップラインは薄く、リアクティブな設計(方向性・飛距離)

お問い合わせ先は、全国有名ゴルフ・百貨店。

ゴルフ用品代理店 **KOTOBUKI TRADING CO.,LTD.**

〒110 東京都台東区上野3-21-11 TEL. 03(8331)4001